

議長／皆さんおはようございます。

休会前に引き続き、本日の会議を開きます。

日程に基づきまして、市政事務に対する一般質問を開始いたします。

一般質問は、18名の議員から58項目についての、通告がなされております。

日程から見まして、本日は、10番 上田議員の質問まで、終わりたいと思います。

質問の方法、時間につきましては、議会運営委員長の報告のとおりでございます。

議事の進行につきましては、特にご協力をお願いいたします。

また、執行部の答弁につきましても、簡潔で且つ的確な答弁をお願いいたします。

それでは最初に、13番 吉川議員の質問を許可いたします。

ご登壇を求めます。

13番 吉川議員

吉川議員／みなさん、おはようございます。

議長の登壇の許可をいただきましたので、ただいまから吉川の一般質問を始めます。

今回は防災とインフラ整備について、学校給食の委託について、国保について、以上3点の質問を展開いたします。

早速ですが、まず、1点目、防災とインフラ整備についてでございます。

今年の夏は、30年に一度と言われる異常気象によりまして、全国各地で災害が頻発をしております。

特に広島市では、大規模な土砂災害が発生して、多くの皆さまが被災されたということで、お見舞いを申し上げたいと思います。

武雄市も同じように、7月8日と、災害が多く発生していると思いますが、その災害の状況についてお伺いしたい。

そしてまた、もう一つ市長にお尋ねしたいのは、今年の災害を受けて、市長としてこの災害をどのような見方、考え方をされておられるのか、市長の認識について、まずお伺いをしたいと思います。

議長／松尾政策部長

松尾政策部長／おはようございます。

議員おっしゃいますように、今年の夏は非常に雨が多く、7月の3日、8月の4日、19日、20日、22日と度重なる大雨洪水警報が発表しました。

警報発令と同時に、災害情報連絡室を設置し、警報の発令はなかったんですが、7月9日には大型台風8号が接近するということで、同様の対応を行った。

この間、避難勧告等の発令は行っておりませんが、できるだけ早い時間帯から避難できる

という体制を整えまして、のべ17世帯、31名の方が自主的に避難している。

被害について何点か申し上げたいと思います。

7月3日の日は、市内各観測所、市内全体的に総雨量160～190という大雨が観測されています。

特に3日の明け方につきましては、1時間雨量40～50mmということで、激しい雨が降りまして、道路関係では国道498号、そのほか、県道1路線、市道12路線で、道路冠水による通行止めを行いました。

家屋の浸水についても、床下浸水ということで、5戸発生いたしております。

それから8月20日の日は、明け方から特に山内町、武内町、若木町を中心に激しい雨が降っています。

特に武内観測所におきましては、午前3時から6時、明け方の3時間で100ミリを越すという記録的な雨が降っておりまして、午前4時23分には、土砂災害警戒情報も発表されております。

道路冠水等も数カ所で起こっているということです。

それから8月4、5の大雨ですが、この影響で8月6日早朝県道武雄***線の法面が崩壊して、幸い人的な被害はございませんでしたが、現在も片側通行という規制です。

8月20日の大雨では、北方町西宮裾地区におきまして、市道の法面が崩壊ということでこちらも人的な被害はございませんでしたが、現在約70mの仮歩道を設置している状況です。そういうことで、今年の夏は大きな被害が各所で起こっているという状況でございます。

議長／樋渡市長

樋渡市長／今後について、私から答弁申し上げます。

2点あります。

1つ目がハードの問題です。

今回、こういった水害がありまして、さまざまにほころびが目立つ部分があります。

これと同じ***があったときに、持ちこたえられないだろうといった箇所が今いくつもあって、これはまちづくり部を中心に詰めることになりましたが、そういった箇所をピックアップして、早めにそこを手当てをすると、予算を重点的に投下するということがまず1つ。

もう一つそれよりも大事なものは、市民の皆さんたちが危ないと思う前に、是非避難をしてほしいということです。

これについては、あとでご質問があろうかと思いますが、防災無線の不備等々がありますが、どう考えても完璧にはなりませんので、ご自身でアンテナを高くして、危なくなるまえに、早めに避難をします。

公民館に限らず、ご親戚のお家とか、少し高いところのご近所のお家とか、さまざまあろ

うかと思しますので、そういったいつなんどきあっても、頭ではなくて体で動けるように、是非、また市民の皆さんたちにあらゆる場を通じて、呼びかけてまいりたいと、このように考えております。

議長／13番 吉川議員

吉川議員／その中でですね、今回特に道路の通行止め箇所が、2カ所ほど、大きく発生しています。

それが先ほども話ありましたけれども、北方の西宮裾ですね、朝日ダムとの境ですが、これとか、あるいは県道の武雄***線、医王寺地区になりますけれども、ここも土砂が崩壊しているということで、通行止めになっています。

このときの発生の状況についてお伺いをしたいと思います。

議長／坂口北方支所長

坂口北方支所長／おはようございます。

現場は、武雄***線の北原町と橘町の***付近で、長さ20m、高さ約15mにわたり、法面が崩壊しております。

第一報の連絡が、地元の消防団員からありまして、ここの道路管理者であります武雄土木事務所に連絡を市の職員が直行しています。

この現場は、県道北方朝日線の北方工業団地入口から、約500m先の農道です。

ここは長さ20m、高さ約15mの中に法面の崩壊をしています。

ここは第一報の連絡が、新聞配達員さんから連絡があっており、現場にすぐ直行しています。

議長／13番 吉川議員

吉川議員／ここの崩壊現場ですけど、今も通行止めにあっている。

医王寺のほうも片側通行になっておるような状況でありまして、このとき、地元の企業の土木業者の皆さんとか、地区の区長さんですね、宮裾でいくと***区長さんとか、あるいは***前区長さん、一生懸命になって、人命の確保、確認にまわっておりました。

そういう状況の中でですね、杵藤計画があると思うんですけど、このときに、佐賀の広域消防から、来ていただいて、発生したのは5時45分に第一報が通報があったということでもありますけど、実際に人命検索を始めたのが午前9時なんですね。

約3時間たってからであったわけではありますが、そういった部分での検索体制、どういったものをされたのか、そのへんについて、少し。

ここは今まで杵藤地区の消防長をつとめられた坂口支所長でありますので、そのへんについてお伺いをしたいと思います。

議長／坂口北方支所長

坂口北方支所長／お答えします。

人命検索は消防署のほうで、2カ所についてはほどこしていますが、人命検索にあたり、地中音響探知機という機材を使います。

残念ながら杵藤地区消防本部には、今現在しておりません。

それで大規模災害時の***により佐賀広域消防本部からそれを借用して、今回は検索をおこなったという状況であります。

以上です。

消防のほうに確認しましたが、これを受けてではないですけど、今年度、検索音響探知機を1機、導入する予定だということを報告いたします。

議長／13番 吉川議員

吉川議員／こういった大規模な災害になりますと、やはり一刻を争う事態になりかけないので、今回のように佐賀から音響システムですか、そういったものを持ってきている間にですね、命が奪われるということもあるので、ぜひこのぶんについては整備を元消防長よろしくお願ひしときます。

それでは、今回の宮裾の斜面崩壊ですが、今回の災害を全般的に見て、防災的視点で今後対策を打っていく必要があるのではないかなという、これは広島災害もふくめて実感をさせられた。

どちらかというと、今までは災害が発生して、災害復旧をどうしようかということに、役所も一生懸命になっていたが、そうではなくやはり、その一方前の段階でどう災害を防ぐか、防災をはかるか。

そういった視点がこれから重要になってくると、思っています。

そこで、宮裾の部分で見ると、ブルーシートかかっているところが、これが災害があった場所であります。実際にはこの右側、左側、ここをですね、今後災害が起こる可能性があるということで、防災的視点にたって、ここも手立てをしていく必要があると。

2、3年前、ちょうど右手のほうで、斜面崩壊して、下のほうには河川が通っていますが、そこに土砂が流入して、こちらのほうの田んぼが水害を受けたということが、2、3年前に発生している。

今回の災害と。

またこれも恐らく、発生するでしょう。

そういった観点ですね、今までの考え方と、ちょっと切り口をかえて現在のほんさいのところプラス、左右の部分を手立てする、こういった対策がこれから求められるというふうに思いますけど、この点についていかがでしょうか。

議長／樋渡市長

樋渡市長／そのとおりだと思います。

議長／13番 吉川議員

吉川議員／ぜひ、そういう認識のもとに、今後対応していただきたいというふうに思っております。

特に、今回いろんな消防団の皆さんとか、地元の業者さんも入って、さきほど仮歩道を70m作るとかですね、早急にその日のうちに対応していただいた。

結局そういう二度手間にならないように、ぜひ、先先に対応を打つ、そういった行政対応をお願いをしたいというふうに思います。

よろしく願いしときます。

それではですね、もう一つ防災行政について、これについてでございますが、この整備が約5年ほど前から、整備されて今運用されてるわけですが、これが市民の皆さんから聞こえないというふうなことで最近、よく伺っております。

その状況についてどのように把握されているのか、お伺いします。

議長／松尾政策部長

松尾政策部長／ご指摘のご意見につきましてはこちらのほうでも承っております。

苦言とかご意見、いろんな形でお伺いしております。

内容については、放送されている内容がわからない、まったく聞こえない。

とくに大雨とか、台風のときは、雨とか風で聞こえにくいというご意見をいただいております。

平成24年の12月に、この防災行政無線についてのアンケート、これは第三期の整備をする前でございますけど、その際も、主な意見としては、窓をしめしていると聞こえない。

チャイムは聞こえているけども、放送している内容がわからない、あるいは音が割れている、山等に反響して聞きにくいというご意見をいただいております、第三期整備が終わりましたが、依然としてそういう問題は残っていると思います。

議長／13番 吉川議員

吉川議員／非常にですね、今の話を聞いてますと、30%ぐらいの人が聞き取れないというふうなことで答えられているようです。

今現在あるのが、屋外の拡声器、それともう一つは、各家庭に設置する戸別受信機であるわけですが、これについて、やはりこういった土砂災害とか浸水被害が起こるような箇所についてはもう一度再点検をして、危険区域を確認して、増設、見直しをする必要があるというふうに思っています。

もう5年たってますので、そういった災害の環境も変わってきております。

ぜひ地元に入り込み、区長さんたちと話をさせていただいて、本当に必要なところは設置をするというふうに、ぜひしていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

議長／松尾政策部長

松尾政策部長／特に屋外拡声器***のに増設につきましては再検証が必要だというふうに思っておりますけれども、先ほど市長も申しましたように、防災行政無線、戸別新規を含めてですけど、このふんで、100%カバーするというのは無理じゃないかというふうに思っています。

そしたらどうするかということですけど、ほとんどの家庭でケーブルテレビが普及してま

す。その画面を活用いたしまして、防災行政無線と同じ内容をテロップで流す。

あるいはもう一つは、すでにやっておりますけれども、同じ内容を電話をかけていただければ、案内をするというサービスをしている。

この分は周知ができてなくて、しかも有料ということですので、この分については無料にして、しかもわかりやすい番号にしてすぐ覚えられるという形で、周知をはかっていきたい。

そういった形で、1つの手段として、対応できないかと思っております。

議長／13番 吉川議員

吉川議員／検証のほう、よろしくをお願いします。

それと先ほど、先に答弁していただきましたが、この屋外拡声器、非常に聞こえないという部分で、例えば1時23分に、〇〇地区に避難勧告が発令されましたというふうな内容とあわせて、これにテレビと連携をさせる、テロップで流すという話をしましたが、ぜひそこは早急に対応していただきたい。

万が一聞こえなくてもですね、チャイムしか聞こえなくてもテレビをつければ、電気がついている以上は確認できるので、ぜひお願いをしたい。

そのことは設備投資はいらぬと思う。

市の安心安全課のパソコンをワンクリックすればそこにテロップが流れるので、そこは早急にやっていただきたいと思ってます。

それと、防災に関連してですが、土木工事についての質問です。

今回もですね、土砂災害等が発生したときには土砂の撤去とか、あるいは歩道の設置、こういったものを地元の建設土木業者の皆さんが早急に仕事をとめてやって対応していただいたわけでありませう。

そういう状況の中です、土木工事の今の契約状況を見ると、最低の契約額が武雄市の場合、70%ぐらいで契約されてる事案がある。

佐賀県をみると、大体90%ということで、20%ほど開きがございます。

こういうふうになりますと、やはり仕事の出来映えそれから、品質の問題とかにも左右しますし、企業としての経営にも問題がでてくる。

そしてまた、雇用、あるいは賃金アップ、こういったものに大きな影響をやはり与えていく。

ですから、せん入札をできるだけ押さえて、過当競争をさせないように、ここは、市が対応すべきだというふうに思っております。

今、物価のほうもどんどん上がっています、それから消費税、これも上がりました。来年の10月からまた2%上がる方向で今進んでおるわけでありませうので、ここはぜひ1回、制度設計を見直しをして早急に対応をしていただきたいというふうに思いますが、いかがでしょうか。

議長／樋渡市長

樋渡市長／議員ご指摘のとおり、安かろう悪かろうになったら…ですよね。

それとこれまだ武雄市では、幸いにしてまだ起きていないが、フラグ(?)とかあるとか、***とかあるのが、各地方でおきつつあります。

そういった中で90%というのは、無理なので、松尾技監を中心としてね、ちょっと低すぎるといったところについては、上げる努力はちゃんとします。

その上でわれわれとしては議員と同じように、品質、経営、賃金は守っていく必要があると思うので、そういう方向で具体的に制度をもう一回再設定したいと、このように考えています。

制度を見直すことはしませんが、最低契約額を上げていくということについてはお約束をします。

議長／13番 吉川議員

吉川議員／早急に対応をしていただきますようお願いします。

それでは次に、防災とインフラということで、白岩体育館と文化会館についてを質問させていただきます。

この文化会館、白岩体育館については、1年前の議会答弁で市長は複合型の文化会館を作りたいということで表明をされているが、ここの施設の実態把握、これがどこまで進んでいるか、そしてもう一つは将来にわたって、こういった負担がかかっているのか、そういったものを検証をしていく、そしてまた施設の更新計画等をたてて進めていく必要があるわけでありまして、まずこの実態把握、どのようにされているのかお伺いをしたい。

特にこういった箱物になりますと、一昨年、笹子トンネルの崩落事故等もありました。

そのあとですね、こういった体育館とかプールとか文化施設の天井落下が全国で相次いでいるわけでありまして。

武雄でそういった状態にないのかどうか、そういった部分も含めて、実態把握の状況についてお伺いいたします。

議長／井上教育部理事

井上教育部理事／お答えいたします。

文化会館の大ホールの天井と、補修工事と外壁の検査につきましては、25年度に実施をしている。

体育館も定期検査によりまして、天井外壁などもすぐに崩落をする等の危険性はていきをされておられません。

しかしながら、実態をご覧になりたいと思いますが、モニタをお願いします。

こちらは文化会館の外壁ですが、このように老朽化や地盤沈下によりまして、外周部分の隙間が生じています。

それから、この外壁についてもクラックというひび割れが生じている。

体育館でもこのように地面と間に隙間があったり、内壁については、このようにひび割れが大きく出ているので、ご利用している皆様の安全を考慮したら、早急に対応が望まれるところです。

議長／13番 吉川議員

吉川議員／今のところ指摘はされていないが、こういった箇所の改修は必要だというふうなことです。

それと将来の負担ということで、質問しますが、これ文化会館の運営改修費ですが、大体年間1億1000万くらいのランニングコストがかかって、平成13年には2億3000万ほど費用をかけて大規模改修がされています。

その後も 2000 万、3000 万、4000 万と毎年かけて、改修はされておりますが、対応年数が間近になってきた現在において、これをこのまま運用するとなるとどれぐらいの改修費が今後かかるのか、そういったところの検証どのようになっているのかお伺いをしたい。そしてまた市長は新たに新設をしたいというふうな意向がありますが、新設した場合にどのぐらいの費用がかかるのか、そういったところの比較についてお伺いをしたいと思います。

議長／井上教育部理事

井上教育部理事／

文化会館、体育館ですが、ともに 10 年以内に対応年数を経過することになっています。文化会館の大ホール、および白岩体育館の今後 10 年間維持をするためにかかる費用をこのたび、記載しましたので、ご覧いただきたいと思います。こちらのほうでございます。

文化会館大ホール、それから体育館ですが、ともに 10 年間、***しますと、大規模な改修が必要となります。

その改修費用と、年度の維持費を足しますと、文化会館の大ホール、白岩体育館を合計しまして、23 億 5900 万、約 24 億円が必要という形になります。

付け加えますと、10 年後これを維持しても、さらに同じ問題が生じまして、今回試算をいたしました、24 億以上かかるということが予想されます。

以上でございます。

それから議員ご指摘の大ホール等の改修をはじめ、改修にかかる費用の主な***です。大ホールの空調設備、舞台の照明改修をはじめとしまして、御覧のような改修が必要だということでございます。

ご指摘の通りありますが、あくまでも新しい体育館、文化会館の機能をどのようにもたせるかによって、その費用は大きく変わりますが、あくまでも 1 つの例としまして、他市の例を 2 つあげますと、こちらのほうは平成 25 年に県内の施設ですが、右のほうにあるアリーナには、バレーでは 2 面、バスケットが 2 面、***のほうのホールについては、463 席の客席を取ることができる。

これによりますと約 14 億という形です。

さらにこちらのほうでございますが、これは県外の施設ですが、古いですが、メインアリーナとサブアリーナが分かれていて、メインアリーナのほうではバレーボールであれば 3 面、バスケットは 2 面、左のほうにありますサブアリーナでございましたら、バレー、バストともに、1 面がとれまして。稼働***が 940 ほど準備できる。

当時の費用では約 20 億という形で建設がされているということです。

議長／13番 吉川議員

吉川議員／よくわかりました。

現在の基本設備を、延命していこうと思ったら、23億強かかっていくということですね。新しくつくるとなると、20億ぐらいで対応が可能であると。

どの規模にするのかというのは、今後議論が必要だと思いますが、よくわかりました。

それともう1つ、今市長がおっしゃっているのは、大ホールと体育館ということでお話がありますが、文化会館の中には小ホール、あるいはミーティングホール等もあります。

こちらの部分もどうするのかと、おそらく対応年数も同じだというふうに思うが、この辺の方針があるかどうか、お伺いします。

議長／樋渡市長

樋渡市長／私個人としてはですね、かなり老朽化がきているので、小ホールだけ残そうかと思ってたんですよ。

しかしちょっと文化・学習課の井上知事からそういうのはありえないですねと。

なぜかという、空調が結構一体化しているといったことから、大ホールをなくすということであれば、ほかの部分も全部除却したほうが、結果的に市民負担がかからないというアドバイスをいただいています。

そういっても議会とか、私どもだけで決められる話ではありません。

特に文化会館のあのエリアは、旧武雄市を中心としてもう40年以上の歴史を有する、ある意味武雄市の中心でありますので、これを除却するということからふくめて、あと跡地利用をどうするか。

私は小ホール、議員からご指摘あったミーティングホールとか、さまざまな、今かなり集会とかがありますので、そういったものは、建て替えた上で残したいということは今思っているのですが、ぜひその方向性で、市民の検討委員会をぜひ作っていきたいと思っております。

庁舎がちょうど前商工会議所会等を中心にして、市民の検討会議がありますので、それと同じものをぜひ作って、その中で市民からこういうふうにしたほうがいいということについて、費用については、私も述べてますので、もう少し具体的にこういったものを、後生に残すべきだという、具体的な委員会をおこして、そこで議論をまずしていただく。

その中で、ぜひ議会にもこの件に関しては特別委員会を新たに設置していただきたいと思っていますので、是非議会のみなさん、そして市民の皆さんが、車の両輪となって、本当にこれ武雄市にしかないというような、そういった施設についての提言をいただいて、それに対して私どもは忠実に、それを実行にうつしてまいりたい。

このように考えています。

ちょっと時間がかかるかなと認識はしていますが、急いでやるよりは、しっかり議論をした上で、あと財源ですね。

財源手当等についても、私どもでしっかり確保しながらやっていければいいなど、このように考えております。

議長／13 番 吉川議員

吉川議員／外部も含めて、検討委員会を作るということですが、財源としては合併特例債の活用があると思います。

期間もそう長くはありませんので、ぜひ早急にスタートさせていただきたい。

そしてまたこういったものについての調査員をつけて、加速させていただきたいと思っております。

よろしくお願いします。

次にうつります。

学校給食の民間委託について、先の議会でも質問しましたが、一昨年から最低制限価格の設定をしていただきまして、委託費については、ずいぶん適正化に近づいてきております。

この影響もありまして、そこで従事される給食業務の皆さんたちの時給についても、少しずつではありますが、アップしてきているような状況であります。

しかしながらですね、前回の答弁で比較をしてみますと 24 年度から 25 年度にかけては、時給で 30 円から 60 円アップ。

26 年度にかけて 10 円から 30 円アップということで、市が積算している基準 954 円から 820 円、これにはまだまだ遠い状況にあるんですね。

以前市が直営でやったときには、900 円台でありました。

そういったところで、今の契約制度の中ではなかなかここを民間にお願いするのが、口頭ではしているけど、難しいという状況であるわけであります。

そこでやはり学校給食の契約ありますけど、今の競争入札、これをやめていく必要があるんじゃないかなと思います。

将来を担う子どもたちの大事な給食を一生懸命作っていただいています。

そういった性質から、競争させる、そういう契約のあり方を改めて随意契約あるいは総合評価制度、こういったものに持ち込んで、良いものを、末永く作っていただく、そういう業者選定のあり方に変えていくべきだと思います。

その物件についてはまた協議をするということで前回答弁いただいておりますが、この進捗状況についてお伺いいたします。

議長／溝上教育部長

溝上教育部長／学校給食につきましては、職務と責任が児童生徒の生命に関わるという、そういう業務でもあります。

さらに民間委託につきましては平成8年度から実施していて、すでに今の事業者さんとは、信頼性、あるいは緊急時の対応について、十分実績も積んでおります。

議員おっしゃるように、教育委員会としても、今後一般競争入札とかじゃなくて、随意契約に見直したいということで、現在作業を進めています。

議長／13番 吉川議員

吉川議員／随意契約の方向で検討に入っているということですが、早急に対応していただくようお願いをして、また質問させていただきます。

最後でございます。

最後に国民健康保険の収支。

これも先の6月議会で質問させていただきました。

答弁いただいたのは、26年度の見込みとしては、1億1000万の単年度赤字がでるだろうと。累積で7億5000万をお伺いをしているところです。

この調子でいきますと、平成29年には10億円を突破する状況になろうかと思えます。

経過としては、24年度から毎年5000万ずつ一般会計からの繰入をしているけど、この状況であります。

もう1つ、25年には、12.9%の税率改正をしましたが、それでもなかなか追いついていない。

この辺がどのような原因になっているのか、どう検証をされているのか、まず現状についてお伺いをしたいと思います。

議長／中野くらし部長

中野くらし部長／おはようございます。

国保財政の現状についてどのように検証しているかです。

今議員のほうから紹介ありましたように、25年度の決算においても単年度で6200万の収支事項になっているということでございます。

累積でも6億5000万の累積赤字になっているということで非常に厳しい財政状況です。

特に25年度においては、ご紹介ありましたように、12.9%平均アップの税率改正を行った。

それでもなお、収支不足が生じている。

また一般会計からの繰り入れの赤字補填という形で、5000万入れてもまた6200万の赤字が出ているということです。

この分につきまして、要因としては医療費の増光がどうしてもあげられるということござ

ございます。

特に保険給付費を中心に、介護保険の被保険者に対する介護納付金とか、後期高齢者の制度を維持するための、後期高齢の支援金。

そういったものの伸びが大きく伸びておまして、どうしてもそういった歳入上の対策とか補填をしても、追いつかないような状況になっているということです。

ただ、24年度の決算で赤字で約1億7600万の赤字が単年度出ていました。

ただそれが今回25年度、赤字が生じましたが6200万に縮小はしている。

それは税率を少し改正をしたということと、税の収納率も若干上がっているということですが。

ただ、黒字収支が改善されて、当然黒字には至っていないし、まだ6200万の赤字が生じているということもありますので、非常に厳しい状況。

これはまた急に改善するかといういえば、なかなかそういった見込みはなくて、今後後期高齢者、高齢者の増等見込まれますので、ますます医療費の増強が見込まれる。

それによって国保財政も圧迫されるということで、厳しい見込みだと考えているところであります。

以上です。

議長／13番 吉川議員

吉川議員／医療費の給付が予想以上に伸びている。

あるいは、高齢化が非常に進んでいるということですが、そういう状況の中で前回も言いましたが、収納率の改善、医療費の削減、あるいは一般会計からの繰り入れ、国保税の見直しということでお、30年には県に統一されるので、あと3年半しかない。

そのなかでどうしていくかということですが、この累積赤字については、今のところ、なかなか難しいところですが、単年度赤字をゼロにもっていく、このことを是非、クリアしていく必要があるというふうに思います。

その中では、一般会計からの繰り入れ是非やっていただきたい。

これは被保険者、あるいは保健所の皆さんの責任ではない。

全国的に、また市民として、負担をしていかなければならない部分ですので、ぜひ一般会計からの繰り入れを大幅に見直すやり方をしていただきたいと思ひますし、国保税についても、これは25年度に12.9%上げたばかりですので、これを大きく上げるとなると、市民負担、非常にかかってきますので、ここは抑えながらできるだけ一般会計からの繰り入れを上げていくことをぜひやっていただきたいと思ひますけど、今の状況についてお伺いいたします。

議長／樋渡市長

樋渡市長／一般会計の繰入は、これは絶対やらないといけないと思います。

ただ、よく、メディアもそうですけど、一般会計の繰入がいいなという意見が出ますが、これね、どういけばいいんですかね。

一般会計から繰り入れをするということはすなわち、一般会計で充填すべき事業が一部でなくなるということなんですよ。

場合によっては、水道料金を引き上げなくてはならなくなるということもあり得る話。

国会の部分にもあてはまりますけど。

ですので、そうはいつでも議員からご指摘あったように、他年度赤字がこれほど膨らんで、累赤が膨らんで、市民病院の民間委譲の前くらいに膨らみきってますので、危機的な状況であるということは疑いありません。

したがって、自民党、公明党にぜひお願いしたいのは、こういうのは市町村レベルの話ではないんですよ。

例えば収納率改善をやってもそんなの焼け石に水です。

医療費の削減というのは、事業ってやっぱりお金がかかるんですよ。

これを下げることは医療の切り捨てと同じ事になる。

ですので、ぜひ、公明党のかたもいらっしゃいますので、自民公明の与党の政権の中で、制度の国が、すなわち、国の財源から市町村の国保広域化の前に、充当できる予算を増やすと。

それがどんどん減っていったのを、3分の2にしてくださいよ。

そのために僕は消費税をあげるのは仕方のないこと。

いまの自暴政権はまたばらまき体制に入ってきてます。

そうではなくて、こういう制度をちゃんと、維持可能にするような設計をぜひ果たすべく、動いてほしいなと思っておりますので、私自身もなかなか市長会にはお友達はいないが、市長会とかいろんところで、この話はしてまいりたいので、ぜひ事項設定と***にして持続可能な制度設計にしていきたいと思います。

だってこれそうじゃないですか。

国保の負担が住むところによって違うのは、これは憲法違反だと思いますよ。

ここは共産党というのと全く一緒。

ですので、そういう中で、今の自民党公明党政権にしかできないと僕は思ってますので重ねてお願いしていきたい。

その中で、吉川議員には副議長には、中心になって動いてほしいなと思います。

議長／13番 吉川議員

吉川議員／この件についても、6月の議会で議会からの意見書という形で全会一致だった

と思いますけど、国保負担の率を上げてほしいという部分と、もう1つは、国による一元管理、この2件については、意見書を出させていただいたところであります。

また自民党としても、政調会(?)のなかでも、こういった意見を出しておるわけでありまして、なかなかいかない状況。

その中で、まずは武雄でやれるところとしては、一般会計からの繰入、これは重要な位置づけになるかと思うが、そういった部分の時間的なスケジュール等があったら教えてください。

議長／樋渡市長

樋渡市長／これは極めて重要な話ですので、私からお答えしたいと思います。

重ねてではあるが、黒岩幸生前議員からもたびたびご指摘ありましたが、一般会計からの繰り入れはします。

これは議会からの、さきほど議員のご指摘もあつたが、そういった決議もなされてますので、これは重く受け止める。

それと国の政策を待つばかりでなく、私どもでできることはどんどん手を打っていきたいと思っています。

今年中に国保の運営協議会にはかりたいと思います。

その中で、平成27年度からの国保会計の健全化に向けて、12月議会で国保税の改正の提案をしまいたしますので、その前に議会とよく調整をさせてもらいたい、このように思っています。

12月議会で、市民、議会にお示しをしていきたいと考えてます。

議長／13番 吉川議員

吉川議員／以上、3項目についてご質問をさせていただきましたが、執行部の皆さんにおかれましては、早急に対応して頂いて、市民福祉向上につながるよう、頑張ってくださいと思います。

以上、終わります。

議長／以上で、13番 吉川議員の質問を終了させていただきます。

ここで、モニター準備のため、5分程度休憩いたします。

* 休憩中(9:46) *

議長／休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問に入ります前に、先ほど13番 吉川議員の質問の中で、学校給食の委託についてということで溝上教育部長より補足説明の申出があったのでこれを許可したいと思います。
溝上教育部長

溝上教育部長／先ほどの答弁で、ひと言で随契に持っていきたいということいいましたけど、そこにつきましては具体的に、業務委託の効率性あるいは栄養教諭の体質を考えて、地区割りを設けて、数校ずつの単位での随契とブロック割りをして、さらに随契といいませんが、プロポーザルを含めた金額だけの競争入札ではなく、そういうやり方というか提案を含めたうえで、プロポーザルを含めた随意契約の方向にもっていきたいと考えてますので、補足いたしたいと思います。
以上です。

議長／一般質問を続けます。

次に、23番 江原議員の質問を許可いたします。

ご登壇を求めます。

23番 江原議員

江原議員／議長の許可をいただきましたので、一般質問をさせていただきます。

23番 江原一雄でございます。

まず最初に平和事業について質問いたします。

1点、オスプレイ問題。

2点目、来年終戦70年被核、被爆70年を向かえます。

そのことについての認識をお尋ねしたいと思います。

オスプレイ問題について、7月、学校では夏休みに入ろうとしている季節に佐賀県に、武雄市民に降って沸いたようなニュースが飛び込んでまいります。

それが佐賀空港にオスプレイが配備されるというニュースで、びっくりしたのは県民市民、みんなではなかったでしょうか。

ここに新聞に投書された市民の皆さんの思いを紹介し、市長にこの問題についてどのような認識をもっておられるか、お尋ねをしたいと思います。

まさかこんなことになるとは、私は驚きを禁じ得ませんでした。

あの民間の飛行場である佐賀空港に自衛隊機オスプレイ17機を配備し、陸上自衛官、目達原駐屯地のヘリ50機を移駐するというのです。

さらには米軍普天間飛行場のオスプレイが移動し、アメリカ海兵隊の一部移転の可能性もあるのか。

これは暫定的ではないといえ、事実上の基地移転と言わざるを得ません。

このようなことになれば世界の人々は佐賀空港を軍事基地とみなすことは、明々白々です。

佐賀県の財政が潤うからよいではないかという見方は、検討違いだと思います。

しかたなか、というあきらめ思想は改めるべきだと思います。

第二次世界大戦でドイツや日本の当時の政権が国民やマスコミを操作し、戦争をかりたてた事実。

私はこれまで世界で起こった惨禍が、これぐらい許していいだろうと少しずつ許す中、突如としてなされを打ったようにして勃発した事実を努々忘れてはならないと思います、というのが載っていました。

私は全く同感であり紹介したわけですが、もし佐賀空港に自衛隊基地の軍事化が計れば、佐賀空港から我が武雄市内の上空、相浦駐屯地、60 キロを7分でオスプレイは飛ぶと言われています。

もし皆さん、六角川を上流に訓練をいわれているのは、今沖縄で訓練しているのは、川を、上空を飛び、高速道路の上空を飛んで目的地に行く。

まさに、武雄市、地域を考えますと六角川を経て、西九州自動車道を出て相浦に7分で行く。

その下に私たち武雄市民は生活をしているわけであります。

佐賀空港は佐賀平野はワルンが似合う、まさに平和のシンボルではないでしょうか。

私は今、佐賀空港は空港ができるとき、県と地元で結ばれた、自衛隊基地化はしない、軍用化はしない、共用化はしない、そういう取り組みのもと、県内の首長のみなさんも、佐賀県議会、あるいは佐賀市議会、佐賀市長の反対に近い声が巻き起こっているが、わが武雄市民、こうした紹介の記事に対して、また私の質問に対して、市長の認識をまず求めておきたいと思います。

いかがでしょうか。

議長／樋渡市長

樋渡市長／市政の一般質問に関する質問とどこがどう関係するのか分からないが、ただご質問がありましたので、お答えをしたいと思います。

私は、基本的にオスプレイの佐賀空港配備については、私のブログやさまざまなか所でも申していますが、賛成であります。

いくつか理由があります。

1つは、沖縄のみなさんへ過度の負担が集中しているということです。

そういった中でこれが数字であるとかさまざまな結果は必要でありますけど、沖縄の皆さんに対する過度な負担を下げるという意味から広く国民が、その負担を分かち合うということは必要だという認識にたっています。

そして、私は、内閣府の沖縄問題担当のときに、一時期でありましたが、普天間の基地移設の担当であります。

そういったことから、やはり抑止力という観点からすると、これは佐世保に配備される、市陸機動団とセットになって、やはり最前線である、離島のみなさんの負担をやわらげるということが必要だということも考えております。

そして、オスプレイ、議員ご存じだと思うが、事故の比率である。

もちろんこれは、空を飛ぶことですので、一般の航空機と同じように事故の可能性というのは否定はできません。

100%安全ではないと思います、これは一般の航空機でもそうですけど、オスプレイは、他の機種と比べて、事故率が低い。

最近事故が起きたというニュースは幸いに聞いていないと皆さんたちご存じだとも思います。

具体的な数字を申しますと、10万飛行時間あたりの事故件を示す事故率は1.93。

10万回で1.93。

海兵隊航空機全体は、2.45であります。

実際安全といわれている、米海兵隊の航空機、全体としても低いということ。

一般の航空機、例えば韓国とか中国の民間航空機、中国の場合は7.いくつになっているが、それと比べても4分の1ぐらい低いので、そういった意味からことさらに、危険だということをおおること自体は、すなわち事実誤認だというふうに思っております。

もとよりこれが絶対安全というのはありませんけど、きちんと数値で指し示す必要があると思っております。

よく、オスプレイの墜落、昔一時期、未亡人製造器といわれたが、あれはどの映像かというのと、試作機の3号機が墜落をしたと。

その映像が繰り返し流されているというのは実情なので、メディアもメディア。

NHKをはじめとして、メディアの影響は、非常に強いとありますので、それはきちんとした報道をする必要がある。

いずれにしても、安全、騒音、さまざまな件がクリアすることを前提に、私自身は賛成であります。

これが政治家として、やはり、きちんと言うべきだと思っておりますので、私は逃げも隠れもしません。

賛成です。

議長／23番 江原議員

江原議員／市長の政治姿勢を明確に述べられました。

私は、この問題に立ち入って、ここで、市長と賛成反対の論陣をはるつもりはありません。

私は、ひと言だけ言うのは、今、このオスプレイの問題はおおいに私たち市民、県民も本当に日本の平和そして、地域の平和を守っていく上でなにか必要なのか、おおいに学習を

していきたいと思っています。

そこで市長答弁されましたので、ひと言いいます。

沖縄の負担軽減といわれましたが、沖縄の負担軽減ではないと思っています。

それは、今まで沖縄にある、米軍基地は米軍が勝手に、ブルトーザーで、飛行場、米軍基地を作ったと。

辺野古基地の問題、オスプレイの配備問題、普天間の移設の問題は、日本政府が辺野古に新しい巨大な基地を作るという紛れもなく、日本の平和にとっても大変許しきこと。

私は沖縄の県民の皆さんに心を寄せて、佐賀空港にもオスプレイはいらないということで、立場で日本の空にもどこにもいらないと。

いま普天間の問題は即時無条件閉鎖であります。

市長も答弁されたので、賛成反対をおおいに学習をして、議論を深めて日本の平和を守るために努力していきたいと思えます。

そこで2点目の問題、来年8月15日、被爆70年、終戦戦後70年目の年を迎えます。

武雄市議会で平成18年、6月23日、非核平和の都市宣言を決議をいたしております。

読み上げたいと思えます。

非核平和の都市宣言決議。

平成18年6月23日、決議第1号。

市の恒久平和は、人類共通の念願である。

しかるに、核軍縮の拡張は依然として強まり、世界平和、人類の生活に深刻な脅威をもたらしている。

われわれは世界最初の被爆国民として、核兵器の恐ろしさ、被爆者の今なお続く、苦しみをかみしめ、この地球上に再び広島、長崎の惨禍を繰り返してはならないと全世界の人に訴えるものである。

武雄市は、非核三原則の観点な巡視を求め、あらゆる国の核兵器の廃止と、軍縮を求める。

ここにわれわれは、日本国憲法にかかげられた恒久平和の理念を、日常の市民生活の中に、いかし、子々孫々計上するために、非核・平和のまちであることを厳粛に宣言する。

以上、決議する、平成18年6月23日、武雄市議会。

決議を全会一致で行った経緯がございます。

日本国憲法のもと、これまで69年、世界で唯一外国の人を一人も殺さなかった、戦争に参加しなかった、それは憲法9条のもとで、政府の行為によって、再び戦争の惨禍が起こることのないようにという全文のもと、平和を構築してきた歴史を持っている日本であります。

だからこそ、この歴史の継承を引き継ぐためにも、来年大きな節目であります、被爆終戦戦後70年目の年を迎えます。

この市議会の決議に基づいて、武雄市として、平和事業の取り組みの考えはないか、お尋ねをします。

議長／樋渡市長

樋渡市長／まず、個人的にその考えは、ありません。

実際のこの世界の情勢、考えた場合に、ご存じのとおり、核というのが抑止力になっている。

なにも私自身は日本が核をもてという立場にたちませんが、現状、中国とか、ロシアだとか、あるいはインドも言われていますが、さまざまな有力な国が核を持っている中で、一方的に市政を預かる私が、武雄市とするならば、そういうとか、市政上であるとか国問題があるなかで、手を挙げるというのは、私は躊躇するものがあります。

もちろん日本の恒久平和を望む1人ではありますが、これによって、何が変わるかといったときに、私は何も変わらないと思っています。

しかし、こういった提言があること自体は、私は市をあずかるものとして、重く受け止める必要があるだろうと思っています。

そういった中で、私の市政としてはその考えはありません。

ただし一方で市議会で、全会一致で、決議でされていますので、これは私も重く受け止めたと思っていますので、70周年に向けて、議会と杉原議長を中心とした議会と調整をはかってまいりたい。

議会がこれ一体となって、やるべきだとなった場合は、再度私自身も調整をしたいと、このように思っていますが、繰り返し申し上げて恐縮ですが、今のウクライナの問題とか、中国の派遣を求めて、海洋進出をしてる中で、一方的に一つの地方都市が70周年ということで、名乗りをあげることにに関していうと、私は疑義があるのかなということを、率直に申し上げたいと、このように考えております。

安倍首相が、総理がおっしゃってるように、積極的平和外交、日本は平和なんだと、平和の礎を築いた国なんだと、そういった憲法9条をもつ国なんだと、積極的にそれを諸外国にいつて、その説明を私ども、地方政治家もやるべきだと思いますので、そういう意味で目指す先は、江原議員と珍しく一緒ですが、向かう手段が違うのかなということはいわざるをえない。

私の答弁であります。

議長／23番 江原議員

江原議員／ありがとうございました。

次は2番目の図書館問題について。

モニターをお願いします。

モニターに映っています、このモニターは、武雄市図書館の写真であります。

この設置されている場所が、福岡の博多駅であります。

武雄市図書館の広告が掲載をされております。

これは、武雄市図書館の広告看板があります、博多駅の新幹線 15 番、16 番線の階段の上に掲載をされています。

私はこの看板を見まして、びっくりしたわけですが、実は、6 月議会に市長は補正予算で 210 万 2000 円の広告料を経費予算を組んでおられました。

その当時、6 月議会の勉強会の中で、補正予算、正直私、ほかの方への予算に集中して見まして、よく認識をしておりませんでした。

当時、各会派の勉強会にも参加したわけですが、この補正予算の一般会計補正予算歳出の主なものということで、執行側から補正予算の紹介をしていただくわけですが、特に新規事業等につきましては、ちゃんにご説明をいただいて、二重丸がつくわけですが、この広告料、210 万 2000 円につきましては、当時執行側から説明がありませんでしたし、掲載もされておりましたので、そしてまた、常任委員会の検討もありまして、うつりましたので、私の所属する委員会付託ではございませんでした。

そこで、この広告掲示板につきまして執行側にお聞きしましたら、費用は 201 万 1572 円の広告料がかかっていることをお聞きしました。

今年の 4 月 1 日から、来年 3 月までの契約とのことでした。

私はこの広告掲示板を見まして、現在の武雄市図書館は公設であります。

委託を CCC にお願いをしているわけです。

やりすぎではないかな、私は率直に思いましたし、市長にお伺いをしたいのは、発案されたのは市長です。

議長／樋渡市長

樋渡市長／私は観光協会の会長にも、はからずも就任いたしましたので、どこにどうやって、武雄市に人・物・金を呼び込むかと考えたときに、ここを、1 カ月強で、例えば羽田空港であったりとか、博多駅、福岡空港、佐賀空港、さまざまところを考えた場合に、まずこの場所が一番費用対効果が高いだろうと認識しました。

ここの乗降客数が 1 日、4 万 5000 人であること。

多くの皆さんがご覧になっている。

博多駅になりますので、観光客の方が非常に多いと、増えていると。

これは国内からも、国外からも観光客が増えているということですので、武雄の今一番の引き寄せるところは、私は図書館だと、これは議会のみなさんも同じだと思っていますので、いろんなものを結ぶよりは、引き寄せるスポットを選んだ。

もとより、ご存じの通り、これをしたからといって、武雄市図書館だけ来られるわけじゃない。

今見てると、武雄温泉だったりとか、お泊まりになる場合は、その周辺のホテルだったり、旅館であったり、さまざまな副次的効果があるということは、議員も認めると思うんです。そういった中で、広告というのは、費用対効果がなければいけない。

そして、武雄市へいらっしゃいといっても、だれも振り向きません。

昔の武雄市はそうだった。

ですので、そういう意味で目に引くものを、ここに置くことによって、武雄市図書館が玄関口となって、武雄市、僕は武雄市だけでいいと思ってません。

近隣の嬉野、伊万里だったり、唐津だったり、そういったところに波及的に観光客の皆さんがお越しいただく。

そして、福岡は福岡市だけでも 100 万人以上でありますので、そういった皆さんが武雄にお越しいただくということも含めて、この場所に設置をしようということ。

あらゆる責任は、後方の責任者ですので、この広報の打ち出し方等については私の責任です。

それを議会にお諮りをして、今批判もいただいておりますが、それは十分に承って、今度の広告にもいかしていきたいと。

次は羽田空港かなと思っております。

議長／23 番 江原議員

江原議員／私はそれは間違っていると指摘したいと思います。

市長の発想は、市民本位というより、まさに商業施設、そのものではないでしょうか。

今の市長の答弁をきいてますと。

最初から約 2 年経過をしておりますけど、昨年、武雄市図書館が委託して、オープンしまして、リニューアルオープンしてから、市民の図書カードの登録者数、当時 2 万 4985 人。

もちろんこの中には、亡くなられたり、あるいは、市外に居を構えられた方もいるかと思う。

しかし、現在登録数が市民登録数が、1 万 2048 人となっています。

そのかわり、市外登録者が、かつて 1 万 2125 人が、現在市外登録者が 2 万 2301 人と、約倍近くなっている。

私はこの現在の武雄市図書館の市長の認識は、まさに武雄に人・物・金を運ぶため、教育施設であった武雄市図書館がまさに商業施設に生まれ変わっているのではないかと言わざるをえませんし、まして、今答弁で言われた、次は、羽田空港、東京や大阪、私は本当にこれは市民の税金であり、それは私は市民感情としてもやり過ぎだというふうに、私の思い、そして、市民の思い、ある人がいいました。

市民税払っている以上、本当に武雄市図書館が元のような落ち着いた雰囲気ゆっくり本が読める、残念でならない。

そういう声を耳にしました。

これ以上、私は他の地域でのこうした掲示板、来年3月で中止するべきだし、そのほかの掲示板予算を組むべきではないと訴えておきます。

図書館問題でもう1点。

最近、昨年の1年間の武雄市図書館の委託されて収支報告書が掲載されております。

この資料を見まして、人件費が…写真掲示でございますので、6ですかね、5ですかね、…。

以前の人件費は、平成24年度分6400万となっております。

これ含めまして、明細が出ないのか、発表されないのか、教育長にお尋ねしたいと思いません。

議長／井上教育部理事

井上教育部理事／お答えします。

只今のご質問につきましては、事前にご質問の内容等を承ってませんので、その指導については、現在ございませんので発表ができません。

議長／樋渡市長

樋渡市長／今の答弁はあまりにも冷たいですので、少し、概略をざくっと話をしたいと思いません。

もともと一般会計から旧武雄市の図書館においては、十数人の、それは年度によって違いますけど、14～17人の雇用をしております。

今は、蔦屋書店の正当な利益の中から一定の雇用を吸収して指定管理者の費用からの、人件費、もう1つが蔦屋書店の利益の中から、雇用を吸収していただいているので、その中でいうと、これも、時期によって違うが、多いときは50数名の方が、今、武雄市図書館を支えている。

ほとんど地元雇用ですので、そういう意味では、新武雄病院と同じように、雇用吸収を相当はたしていただいていると思っております。

そういった中で、先ほどご意見だけ言ったが、武雄市図書館は商業施設だとは一回も私は思ったことない。

図書館法に基づく図書館ですので、そういう図書館だと、図書館の中の図書館だと思っております。

それも一定の来館者の皆さんが、支持されてるなかで、それは佐賀新聞を中心に大きく報道されたが、87%の来館者の皆さんたちが評価する施設とは、私は過分にしては、ほとんど聞いたことはありません。

去年の7月にとったのが83%なので、そこから4%も伸ばしている。

そういう意味からすると、単なる商業施設だったらこれほどの評価はない。
それと市民登録者数の話がでてきたが、もともとハチャメチャなんですよ、市民登録とい
うのが。
実際、引っ越された方であったりとか、死亡された方とか、自分の意志で入っていない方々
が、リストの中にのっているといったなかから、これを分母にしていうのはお門違いだと思
っている。
これは基本的には個人情報をしっかり守った中で委託前のあやふやな数値を起点にするの
は、比較対象にならないと、これは重要な話ですので、申し添えたいと思います。
確かに来館者の皆さんと、実際の図書館の貸し出しの利用者の数が***だと、これはメ
ディアからも、一定批判をうけたりするが、これは僕は間違いだと思う。
今まで図書館に縁遠かったひと、井上議員もそうですよ、図書館にもきもしない。
ですが彼は図書館に来ることによって、きのう話をしましたけどやっぱり本はよかねと。
図書館は無料の貸し出し本屋ではない。
やはりいい空間のもとで、本に親しめる空間であるのであれば、大事な…答えてますよ。
そういう意味で言うと、私としては、倍増えてくという意味からすれば、それは、今いろ
んな問題、課題があるが、いい方向に進んでいると思っております。

議長／23 番 江原議員

江原議員／私は教育長にお尋ねし、理事が答弁しました。

議長／江原議員、あなたが質問しているので、答弁をさしているんです。
そこは認識してくださいよ。

江原議員／議長、私時間ないんですから。

議長私は今、教育部理事井上理事が答弁されました。
事前にしていないから、答えられませんといたしました。
紹介します。

市長のブログです。

2013 年 6 月 9 日のブログ、去年の話です。

去年の 6 月 10 日から市長の文章です。

まず 10 日から武雄市では一般質問が始まります、るる述べながら、自民党の谷口議員、共
産党の江原議員が明日の質問に立たれますが、うちの事務方の要望に基づき、この 2 人の
事前の質問取りは、ご遠慮していますと、だから、今質問で聞いているじゃないですか。
答えてください。

議長／樋渡市長

樋渡市長／お2人方への質問取りは、ある意味、公務執行妨害ですよ。

要するに…私は答弁していますよ。

失礼なことを言ってるつもりはありません、事実をそのまま申し上げてるんですね。

複数の職員が、同僚の職員が大切な職員が、日々公務があるわけですよ。

その中でその時間をさいて、質問取りに行くと。

それをもう複数かなり、答えてますよ、答えてますよね。

議長／勝手にやりとりをしないように。

樋渡市長／私も今回ね、ヤジしてませんよ。

議長／静かに。

江原議員、質問を許可していませんよ、あなたに発言を許可していません。

いま、市長に答弁を許可しています。

市長答弁を。

樋渡市長／混乱していますよ。

ですので、要するにそれを踏まえて、公務員の仕事というのは、公務優先なんですよ。

議員さんだってそうじゃないですか。

それをしかもね、江原議員さんにおかれては、前の古賀部長との約束をやぶって、ネタバレをしたりとか、いろんなことをしたわけですよ。

盗撮をしたりとか、そういった中で、私どもが能動的に質問取りに行くということ自体は、それは市民の価値を著しく下げるということで、禁止をします。

それは任命権者の私が禁止をします。

その代わりに、私は申ししますが、議会の場ですので、一定の資料要求にはきちんと応じています。

こういった資料を出しなさいということについては、これは、与野党の区分なく、それはしっかり、資料としては出しなさいということは、執行部などにもたびたび申しているの、そういった意味で江原議員がなされる話というのは、単にそういったことで、ままごとのことをおっしゃるのではなくて、やはりこういう質問をするからこの資料を出しなさいということについては、私自身はしっかり応じていきたいと。

ただし、なんで、質問取りにいかないのかというのを、何も密室談合で決めたということは私の一番の政治姿勢では反することなので、去年の6月に私も十分覚えているが、私たちの市政として、市民の皆さん、議会の皆さんに申し述べたということでありませぬ。

ですので、しっかり議会最優先だということについては重ねて申し上げたいと思います。

議長／23番 江原議員

江原議員／議長が、一般質問の当初、執行部は明確に答弁答えるべきだと、申されておるではないですか。

全く違うことを言いながら、答弁されているが…。

議長／いいえ、それは私が認めてますよ。

そういうことはありませんよ。

江原議員／私が主張しているわけです。

この図書館問題につきましては、本当に掲示板の問題、そして収支報告書についても、明細を出していただきたいと要望しておきます。

次、3番目の教育問題にいきます。

教育長にお尋ねします。

教育長は1日の開会日、教育に関する報告をされました。

読み上げます。

来春から、開始する官民一体型の学校づくりについては、現在、各小学校区単位での地域教育会の準備及び、発足に向け保護者や地元の方々への説明を行っております。

もうすでに、ほとんどの地域で協議会が立ち上がり、地域、学校の大きな前進と捉えておりますと述べられました。

ほとんどの地域で立ち上がっているのでしょうか、ご答弁をお願いします。

議長／溝上教育部長

溝上教育部長／ご答弁申し上げます。

現在、小学校区11校区ありまして、そのうち具体的には9校区で地域協議会が立ち上がっています。

残る2校区についても、これまで説明会あるいは準備会等をずっと開催されておりました、来週その設立のための会議を開くという連絡を受けておりますので、もう少しいたしましたら、すべての小学校区で立ち上がると考えております。

議長／23番 江原議員

江原議員／教育長、答弁ください。

ほとんどの地域で協議会が立ち上がると報告されました。

市民は全ての11校区で立ち上がったと認識せざるをえませんが、こういう文章を教育長が報告をされました、その認識はいかがでしょうか。

議長／溝上教育部長

溝上教育部長／先ほど申しました通り、11校区のうちのいま9校区で立ち上がっています。あとの2校区についても、予定でありますので、ほとんどの地域という言葉になっているんじゃないかと思います。

議長／23番 江原議員

江原議員／まさにここに、この協議会のきょうせいがあるんですよ。

私は、まさに来週、部長の答弁で来週設立のため、開かれます。

もう立ち上がりました、ほとんど、これはもう既成事実ではないですか。

こういうことが教育行政上、行われていいんでしょうか。

私は、今回、地域協議会というのが、本当に地域のみなさん苦勞されております。

教育の専門家でもない、まして、さまざまな地域の行事や地域の問題が山積してるなかで、この問題に対処するという意味からいきましても、本当に苦慮している、そういう声を私は耳にする次第であります。

私は、こうしたものは本来、教育が地域の人口減の対策の問題とか、くっつけて論じられていること自体が、この官民一体型、協議会を立ち上げて行く上でも、大きな問題を示しているかと思います。

昨年、今年の3月議会でしたが、市長はこの官民一体型学校づくりを作っているということを議会で答弁されました、報告されました。

そういうときメシが食える大人、白を黒といえる人づくり、こういうことを言いました。

2人の議員の答弁に、質問に答弁に言われたじゃないですか。

白を黒といえる、2回言いましたよ。

言いました。

議事録持ってきてください、じゃあ。

議事録持ってきてください。

議長／静かに。

江原議員／私は本当に、この官民一体型の学校づくり、もちろん議案も出ていますので、そのときにまた、主張したいと思います。

そこで教育長にお尋ねしますが、2点目のプログラミング授業について、教育について、ここに地域に配られた資料がございまして、プログラミング授業、各種に取り組みますということで、この低学年でのこのプログラミング授業というのは、教育課程外と示されております。

このことを説明してください。

議長／樋渡市長

樋渡市長／そんなに嫌わないでください。

まず、ちょっと重大な事実誤認があるので、私のほうから答弁しますが、地域協議会(?)というのは、なにも強制で押しつけではない。

これは、地域協議会というのは、そこでやるということを決めるところではない。

要するに、やるかやらないかを含めて、教育の専門家だったり、あるいは教育委員会だったり、あるいは地元の皆さんたちの意見を集約するような場なんです。

この場すら否定するということは、これはもう密室談合と同じじゃないですか。

あるいはきょうせいして、例えばどこどこ小学校にするとということにすれば、それこそ教育の独自性とか自主性、地域の自主性を否定することになるんですね。

だから、江原議員におかれては、もう批判するところはこれくらいしかないのかなということだと思う、ちょっと答弁させてください、議長。

議長／答弁どうぞ。

樋渡市長／ですので、そういう意味からして、私はそういった場で、しかも教育ってのは、地域と一体となるべき話ですので、そういう中で、幅広く議論してほしいなということがあります。

従って、今まで開設している、例えば東川登小学校の校区が皮切りだったんですが、明らかに***した話ですよ。

自主的に開こうとしているところに対して、それは認識を改めたほうがよろしいのかなというふうに思っています。

そして、私は白を黒にとも言えるっていうふうに、白を黒に言える人間を育てるとか、ひと言もそんなこと言ってませんよ。

言えるというふうに申し上げていますので。

それと、やっぱ汚いヤジが飛びますね、お金を返さない議員さんからね。

そういった汚いヤジがまだ市議会で飛び交うこと自体が、こういった場で、話す場ではないと思うんですよ。

そういう中で、ぜひヤジは慎んでいただきたいと思いますね。

僕は、全部否定するわけじゃないです。

良いヤジと悪いヤジというはありますから。

ですので、そういった中で議論が活発になるような方向で私どもとしても、答弁してまいりたいというように思っています。

プログラミング教育については、教育担当長からお答えをさせていただきます。

議長／江原議員、先ほどの答弁を市長に許可したのは、江原議員が誤解を招くようなことを言われたので、市長に答弁を許可しております。

江原議員／私は教育長に聞いてます(?)

議長／浦郷教育長

浦郷教育長／プログラミング教育が教育過程外かというところの話であります。

このプログラミング教育につきましては、すでに文科省も総務省とともに教育の推進の中で、予算化をして、今年度から授業に取り組んでおられる内容です。

初等中等教育からのプログラミング教育ということで、推進がなされております。

そういう中で、小学校の1年生からということで、狙い、それから意義等々踏まえまして、保護者の方、学校での論議を踏まえて、年間8回程度の指導を計画したというところ です。

議長／23番 江原議員

江原議員／私が聞いているのは、プログラミング授業というのは教育過程外だと。

そして、武雄市や学校は無料で使用することができる。

ディー・エヌ・エーとしてはデータをとることにより、良いアプリソフトの開発につながる ことができる。

これは教育過程外で、学校でこういうことが行われて、そしていわゆるアプリケーションの 開発ソフトをするための資料作り、まさに武雄市教育がこのプログラミング授業という のは、まさに実験台ではあります。

まさに、担当されたこの、ある先生が、実験だということを取材にもお答えしてありまし たが、私はこれでは市民の、あるいは保護者の皆さんの不安が消えないといわざるをえま せん。

慎重な対応、そして中止を求めておきたいと思えます。

次、4番目の道路行政にいきます。

お願いします。

これは、国道35号線、犬走地区、今、犬走地区線形改良工事が行われている、山内側から

見た写真。

これ平成8年、有田で開催される同時に山内町政時代から、この改良工事に動いてきた問題であり、7月私は各省庁に要望します、地方省庁への要望、参加をいたしまして、改めて国道35号線、武雄市山内町犬走地区の線形改良工事の質問を要望しましたが、平成20年度、着手されています、現状1.20m、1kmと20m、延長メーターが1020m。線形改良工事が行われているわけですが、回答はまだ用地交渉が一部残っているということで、用地交渉が済んだところから改良工事が進んでいるわけですが、この問題につきましても、以前質問しましたが、市長が先頭になって、早期改良のために、お力をご尽力そそくべきだと、お願いをするわけですが、市長の認識をお尋ねしておきたいと思います。

議長／樋渡市長

樋渡市長／私はこの問題で江原議員が動いたことは、まったく関知していない。

地元の末籾議員さんとか、浦議員さんとか山口裕子議員さんとか杉原議長中心として、山内町時代から動かれてるとかいうのは、僕はよく承知してる。

かなりタイトな時間のなかで、杉原議長が動かされたということは、私は役人の時代から知っておりました。

ただし、あなたが動いているというのは、まったく知りません。

人の手柄を自分のものにするってのは、どうなのかなということを、はっきり。

僕ははっきり言いますので、だから敵も多いんですが。

そういったあなたの質問自体が、僕はナンセンスだと思っています。

議長／静かに。

樋渡市長／お互いナンセンスということで、新着状況としまして、ヤジがひどすぎませんか、議長。

議長／江原議員、静かにしてください。

市長答弁は、最小限に。

樋渡市長／私は、いつも簡潔明瞭にと。

それで、新着状況については、今年の8月末現在で、地権者の数、82%進んでいます。

これが多いのか、少ないっていうのがありますが、あくまで相手のある話ですので、ここは慎重にちゃんと理解をしていただいた上で、事業を進めていく必要があると思っていますので、末籾議員さんを中心としてここは是非やってほしいなと思います。

今後、この件に関しても、佐賀の国道事務所の方とお会いをしています。

1日でも早い改良が進むように、私自身も努力していますし、この件に関して言うと、九州地方整備局長、あるいは国土交通省の道路局長、大田大臣を含めて、さまざまにアプローチをしているところです。

そういった中でここが、やっぱり、旧武雄市と北方町は、一体性を取りやすいというのがあるが、改良が進まないと、やはり旧山内町と旧武雄市というのが、もっと密接になるためには、ここの改良は必要だと思っているので、それは、議員とそこだけは認識が一緒です。そこはしっかりやっていきたい。

行政側では議会を中心として、しっかりやってまいりたいと、このように思っております。

議長／23番 江原議員

江原議員／次に2点目ですが、これは県道山内町26号線、山内伊万里線。

これは山内町側から、ここが伊万里地区が境界です。

この路線につきましては、ここまで歩道があったわけですが、ここから歩道が、伊万里方面にありませんでした。

これは初めて議会で取り上げるが、この問題は地域の皆さんも含めて、関係者通る人、大きくなれば、歩道が付けばいいなと同時に冬場は非常に凍る地域でして、危ない。

よく事故も起こってます。

私はこの要望についても、武雄土木事務所等に要望、お願いをしていますが、なんと調査に行きましたら、工事用看板がつかまして、伊万里土木事務所に行きましたら、もうこの黄色い線、歩道ができて、1年数カ月かけて、1億2億近いお金をかけて、法面を大きく削り取って立派な歩道を作るということを答弁いただきました。

紹介に変えますが、こういう形で進むということで、質問は省略しますが、町民にとっても大変、赤田の地域の皆さん、宮野地域の皆さんにとっても、いいこと何よりであります。

早く完成を待ち望みたいと思います。

あと5分です。

最後になります。

市長の政治姿勢についてお尋ねします。

公開質問状等が行われました。

私はこの公開質問状について市長がどうして、答弁、回答をされなかったのか、簡潔にお願いします。

議長／樋渡市長

樋渡市長／赤田県道改良工事については、私のほうからお答えします。

その件についても、地元の山口裕子議員さん、浦議員、杉原議長さんがものすごく動かれている。

管轄は違いますが、私を通じて、県であるとか、伊万里の土木事務所にしてます。

これが急に降ってわいて起こるようなことじゃない。

簡単な問題じゃない。

だから、人の手柄を自分の手柄にするようなことはやめてください。

書くじゃないですか、自分がやったとか。

そして、公開質問の件については、そういったことを質問すること自体が一般質問だと思っておりますので、本来ならば、オスプレイの問題とか、ここで答える筋合いじゃないんです。一般義務にかかる、質問ですので。

ですが、私は一般質問は自分のそのホームのなかでは、最優先だと思っておりますので、市民の皆さんもご覧になってますので、一般質問とは違うと思っても、自分の見解を申し述べてます。

そういう意味で、あなた方が出された、公開質問状は言いがかりであり、いちゃもんであります。

そういったものに答える時間があるのなら、市民お一人お一人に向き合うというのが、私の政治姿勢であります、あるいはいちゃもんであります。

議長／23番 江原議員

江原議員／私はいまの市長の答弁、呆れますよ。

地方自治法第132条は、普通地方公共団体の議会の会議または委員会においては、議員は無礼の言葉を使用し、または他人の私生活にわたる言論をしてはならないと。

さらに、武雄市議会会議規則、第5条規律、議員の尊重の項で、第151条、議員は議会の議員を(?)重んじなければならないとある。

ところが、議会にはそういう私たち議員には、ちゃんとした議会の尊重や、市民の付託に答えた、この市議会を、信用を保つために努力が認められている。

ところが、執行部にこういうことはありません。

まして、執行権者たる、市長、県知事ではありません。

それは、こういう法律や会議規則があっても本当に議員を守る姿勢が求められている。

私はこんな今の市長の答弁は許せません。

私は市民の付託を受けて、市民の代弁者として、この場に立って質問してます。

そうした真摯の思いで質問し、真摯に答えるのが市長の努めではありませんか。

このような市長の態度が続くなら、撤回しないなら、いちゃもんだと言われるなら、本当に断固たる決意を申し述べ、市長の言動のはくば(?)や、先ほどの言葉、まさに誹謗中傷であります。

私はこんな言動が続くのであれば、断固たる決意をもちあげ、私の一般質問を終わらせていただきます。

議長／以上で、23番 江原議員の質問を終了させていただきます。

18番 山口昌宏議員

議事進行ですか。

山口昌宏議員／議事進行に、2点ほど、1点目。

議会前にわれわれ議会運営委員会で論議をし、決定をしたことは要するに、質問の趣旨を出した分については、質問をとるというのを決定をいたしました。

その中で先ほど、5番を江原議員飛ばされましたよね。

なぜここを言ったかという、時間が1時間しかないから、自分がその範囲内で努力をして一般質問をとる。

その辺について、議長より、まず整理をしていただきたい。

もう1点目は、議員の質問の中に市長から地域協議会がきょうせいをされて、地域協議会を立ち上げたような言い方をされました。

一番初めにしたのは、われわれ東川登だったんですが、東川登がなぜ市長からきょうせいされてまで作らなければいけなかったのか、その辺についても、精査をして、削除をしていただきたい。

議長にそのへんを求めます。

議長／只今の議事進行についてですが、質問につきましては、質問事項については、全て質問していただくということで、前回も、以前から申しています。

これについては、されなかったかたには嚴重注意をしたい。

これは初めてのことでありません。

今までも何回も注意をしてくれています。

この質問事項については、通告した分については、質問していただきたいと。

ある議員さんにも私は注意したこともある。

地域協議会、この点についても、誤解を招く恐れがあるということで、山口昌宏議員から議事進行で指摘されましたけども、これについては市長に答弁をさせております。

それで、一応了解をいただきたいと思っています。

はいどうぞ。

23番 江原議員

江原議員／今議事進行が出ましたので、そのことについて議長に尋ねますが、質問項目が、いろいろ出すわけだが、それが済まなかったから、議長は嚴重注意をすると言いましたが、

それはもつてのほかであります。

私はさきほど1時間ぎりぎり、58分、59分でしょうか。

1時間以内にとめるために質問しました。

みなさん、政治を見た人ご存じかと思います。

6項目あげておりますが、市長に簡潔明瞭に答弁求めます、議長にも簡潔明瞭、教育長にお尋ねをしているのに、市長が出てきて、答弁をされます。

これで本当に市長の采配を求めたいと思います。

嚴重注意というのは、どういうことが嚴重注意ですか。

それと合わせて、議事進行のためには、議事を6項目あげているが、議長としてそれをスムーズに議事を取りはからう、これをお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

議長／静かに。

先ほど、私が言いましたよね。

昨年度も何回となく、ある議員さんもぼーっと質問事項並べてここまで質問しいぎんがわからんですがという内容で質問しました。

そのときも注意しております。

幾度となく注意をしてきて、そういったことをされたと。

山内秘書長さんも、今回あなたに答弁するために原稿を作っておられます、あなたが飛ばしておりますために、答弁されていません。

そういったこともあるので、一応注意していきたいと思います。

質問を私は途中で切るわけにはいかない、答弁を私がやめさせるわけにはいかない。

言論の府はされない。

ですから、質問者、答弁者も簡潔に、お互い協力してお願いします。

ここで、10分程度休憩いたします。

* 休憩中(11:00) *

* 休憩中(11:00) *

議長／休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

次に、4番 山口 等議員の質問を許可いたします。

ご登壇を求めます。

4番 山口 等議員

山口等議員／みなさん、こんにちは。

議長より登壇の許可をいただきましたので、ただいまから山口等の一般質問を始めさせていただきます。

今回は2項目の質問を予定しております。

まず、最初に防災・減災についてです。

2つ目に、教育についてであります。

みなさん、ご存じの通り、先月の8月の20日、広島県で短時間による、甚大な土砂災害が発生いたしました。

広島市の安佐北区では、1時間雨量が120ミリ以上、また数時間で250ミリ以上という豪雨があったそうでございます。

早朝3時、4時の出来事でございます。

この災害で70名以上の方がお亡くなりになり、また行方不明の方が今、まだおります。

また、警察、消防、自衛隊による必死の捜索活動も今なお、行われています。

この場をおかりしまして、災害に遭った方に心よりお見舞いを申し上げます。

では、質問に入らせていただきます。

まず始めに、その防災、減災であります。

今回被害が広がった、広島県の安佐北区について、県が指定した土砂災害区域であったようでございます。

そこで質問ですが、この武雄市も周囲が山に囲まれているのですが、県が指定している、土砂災害危険区域はどのくらいあるのか。

危険箇所には、土石流、地滑り、また救急車等のいろんな事例があるかと思えます。

どれくらいあるのか、まずお聞きします。

議長／森まちづくり部長

森まちづくり部長／モニタをお願いします。

武雄市における、土砂災害危険区域はどのくらいあるかということですがけれども、土砂災害については大きく3種類ありまして、1つはモニタで表示しているが、山腹が崩壊して、土砂が下流のほうに流れていくというふうな土砂溪流区域につきましては、市内に409箇所あります。

続きまして、土地の一部が地下水等によって崩壊している、滑りを起こす、地滑り危険箇所については、市内に27カ所あります。

次に、崖地の傾斜が30度以上で、土地の崩壊する急傾斜地市内につきましては市内に1105カ所が指定されているところであります。

議長／4番 山口 等議員

山口等議員／土石流の危険箇所が、409カ所。

ただ、地滑り場所が9箇所、救急車が1000カ所以上で、合計1500箇所くらい武雄市にあるわけなんです。まず、この危険箇所を地域住民の方に知っていただく。

危険であるということを知っていただく、それが一番重要じゃないかと思います。

そういったことで意識付けが一番だと思うんですけど、そのようなソフト面のことで、どのようなことを取り組まれているか、まずそのあたりをお聞きします。

議長／松尾政策部長

松尾政策部長／水防法に基づきます洪水予報河川、あるいは周知河川であります、六角川、松浦川のハザードマップにつきましては平成22年に作成をして、各家庭に配布をいたしているところであります。

さきほどの土砂災害関係でありますけども、県のほうでマップが作成している途中でありまして、来月あたりになりましたら、こちらのほうにいただけますので、その分については、各家庭に配布をいたしまして、自分の家あたりがどういう状況なのかという件については、ご確認をいただきたいというふうに思っております。

住民防災意識の関係であります。行政区ごとに自主防災組織の組織化をお願いしています。

すでに設置をしてある、行政区については、年に1回程度の避難訓練を実施していただくということを区長会等を通じてお願いをしているところであります。

そういった、設置を踏まえまして、お互いの連絡体制とか、そういう会議の中で、防災マップ、より身近なところの防災マップを作っていただくということで、あるいは、より身近な自分たちの区で、防災訓練をしていただくというふうなことを通じて、防災意識の向上をはかっていきたいというふうに思っております。

議長／4番 山口 等議員

山口等議員／ハザードマップ、防災地図も、整備されていると思います。

またいろんな地区、小さな地区でも、地区単位のハザードマップも必要になってくるかと思っております。そのあたりの整備状況をお願いします。

議長／松尾政策部長

松尾政策部長／モニタをお願いいたします。

土砂災害警戒区域、あるいは特別警戒区域につきましては、県のほうで、指定が進んでい

るところです。

法律の規定によりまして、県のほうで指定をされまして、市においては、行政区くらいの単位でより詳しいハザードマップの作成というのが義務づけられております。

画面で紹介しておりますのは、昨年武雄市内においては、武内町が指定が完成しております。マップをいただいているところでございますけれども、武内町の各区に出向きまして、各区の区長さん、あるいは役員の方とか、消防団、いろんな組織の代表者の方、一同に介しまして、より詳しい自分のところの災害危険場所とか、災害があったときに、どこに避難するかといったことを自分達で話し合いをしていただきまして作ったマップです。

小さくて見にくいですが、この中に赤で囲んだ部分がありますけれども、ここが県が指定した特別警戒区域、おおむねその周辺に黄色で、見にくいんですけど、囲んだところが、警戒区域ということになります。

こういうマップを参考にしまして、ピンクの実線につきましては、ここは、避難するのに大丈夫だろうという、あるいは、ピンクの破線につきましては、ここは冠水の可能性があるということで、避難の際は十分に注意する。

あるいはこの道を通るといった、こういうことを、各地域で話し合っただけで作っている状況であります。

武内町については、県の指定も終わりましたので、作成済みですので、今年の雨季前に全家庭に配布をしたところでございます。

他の町については、県の指定の作業が終わり次第、順次そういった作業を進めたいと思っています。

議長／4番 山口等議員

山口議員／このように、整備されたハザードマップが、整備されたところばかりではないと思います。

これから先、まだ予定されているところもあるかと思いますが、行政、市の担当の方と打ち合わせをされて、地区の方は地元の状況を確認されて、避難場所等を、きちんと把握していただくように、このあたりをよろしく願います。

今回の広島県の災害の短時間でですね、短時間の豪雨による土砂災害がどこにでも今、発生する状況であります。

よそ事ではなく、身近に起こる災害だと思っておりますけれども、ハード面、対策はどのようにされているのか、お伺いいたします。

議長／森まちづくり部長

森まちづくり部長／モニタ願います。

先ほど訂正させていただきます。

地滑りの地区を、27カ所と申しましたが、28カ所の間違いですので、訂正お願いしたいと思います。

土砂災害対策については、ハード面についてですけど、ハード面についての、土砂対策ですけど、土石流、地滑り、崖崩れ等によって方法は異なってきます。

今モニタにあらわしているのは、土石流の対策であります。

山腹が崩壊して、北区の底流に障害物を設置して直接流れをとめる。

コンクリートなどによって、せきていをつくって、その下流のほうに完全に水を流すための水路をつくるといった工事であります。

これが実際に今、武雄市内で設置されてる砂防事業であります。

次に、地滑り対策、地滑りの要因であります地下水を低下させる排水ボーリングを実施して、地中から早く水をぬくという方法でございます。

地中の岩盤を利用した、アンカーで安定をさせるというふうな方法で、地滑り対策事業を行っているところです。

これも武雄市内で実施しております、アンカーによる地滑りをとめる方法であります。

次に、崖崩れ等に対しましては、崩れをとめるために、コンクリートによる擁壁や法面の保護をするのり砕等(?)は実施されております。

これも市内で今実施している中傾斜(?)対策事業ということでもあります。

以上です。

議長／4番 山口等議員

山口議員／身近なところで、災害が起こった写真なんですけど、これは平成21年、5年前です。

県道の武雄伊万里線トンネルに行く手前のですが、これが5年前の7月に発生いたしました。

100mぐらい、滑ってしまって、通行止めというのが当分の間続きましたが、いろんなかたちで早急に対応していただいて、片側通行、または全面通行が可能になりました。

これらの、先ほど吉川議員からも言われてますが、県道武雄***の土砂崩壊したときの8月6日の写真でございます。

現在、片側通行ということで対応されております。

その中で私が、2年ほど前でしょうか、柏岳の砂防事業の質問をさせていただきました。

集落等も非常に増えまして、その現状はどのようになっているのか、またその後の計画はどのように進んでいるのか、お尋ねいたします。

議長／森まちづくり部長

森まちづくり部長／柏岳の砂防事業ですけれども、場所的には旧市民病院の裏のほうの、柏岳の山腹の溪流の土砂災害を防止するというふうなことで、現在佐賀県にて、調査、測量が行われていまして、来年の1月いっぱいかかる見込みとなっております。

その後、計画に対する地元説明会をへて、平成27年には、事業道路を施行する予定となっております。

本体の工事につきましては、28年度から本体の工事に入ることとなります。

地元の協力が重要かと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思っております。

議長／4番 山口等議員

山口等議員／柏岳というのは、今言われたように施設ですね。

災害施設等がその下のほうにあるんですけど、朝日の甘久も一部入っていると思います。

雨がひどいときの状況でございますが、甘久地区のほうから見た部分です。

27年度には、用地交渉をして、***作っていきたいと、本当にありがたいと思います。

地元としても、協力をしていきたいと思っておりますので、一日でも早い着工をお願いします。

それで、3年半前、東日本大震災、一昨年前の7月に九州北部災害でも武雄市としてボランティア活動を行ってまいりましたが、今回の、広島土砂災害におきましても、武雄市としてボランティア活動の予定はされているのか、お伺いします。

議長／平川つながる部長

平川つながる部長／今回の災害について、現時点では、武雄市としてのボランティアの派遣予定はありません。

熊本への派遣へつきましては、市長との交流があったということがありまして、1つの場所に集中してボランティアさせていただいたという背景がございます。

また今回の広島の情報を集めてみますと、一定のボランティアの制限をされていると。

県内だけに限った制限をされているといったような情報もございまして、現時点では派遣の計画はないという、状況です。

議長／4番 山口 等議員

山口等議員／今のところはボランティアの計画はないということです。

今回のようなものは、広島の***災害はいつも本当にどこでも発生するような状況でございます。

ハード面の設備がどうしても追いつかないということですので、これを期に、皆さんの防

災に対する意識を十分もっていただいて、各家庭でも、防災についても話し合い等もして
いただいて、こういうふうな防災の意識付けを十分にしてほしいと思います。

次なんです、昨日、9月7日、武雄市の総合防災訓練が実施された。

私も見に行きましたが、今回どういった点に、重点をおいて、訓練を実施されたのか、お
尋ねいたします。

議長／松尾政策部長

松尾政策部長／昨日、武雄市総合防災訓練を実施しました。

今回は、武雄区、花島区、長島区、***区の住民の方を中心にご参加いただいて、住民
の数が約350名。

それから消防団約100名、その他陸上自衛隊のご協力をと、市役所等を含めて、全体で
約550名の参加があり、実施をしたところであります。

関係者の皆さんに厚く御礼申し上げたいと思います。

今回重点を置きました点については、大きく3点。

1つは災害対策本部を設置いたしまして、災害情報の収集から、避難勧告等の発令までの
手順の確認。

職員の迅速なタンシュウ(?)とか、自衛隊、警察、消防機関との連携の確認といったもの
を行いました。

2つ目には、一番大事になるかと思いますが、住民の避難訓練でございます。

特に高齢者などの支援を要する方の避難の支援と。

それから消防団によります避難誘導という点でございます。

3つ目でございますけども、なかなか多くの方が一同に介する機会、そういう場をつくる
のが、なかなか難しいのがありまして、この機会をとらえ、非常食の炊き出しとか、消化
器を使った消火訓練、あるいはAEDの訓練、そういったものを同時に行ったところです。
そういうことでございます。

議長／4番 山口 等議員

山口等議員／私もきのう、花島公民館前の避難訓練の状況を確認してまいりました。

避難訓練、1番大事だと思う。

危険と感じたら、早く逃げることに、これが一番だと思うので、これから先もこのような訓
練を続けていただいて、1人ひとりの意識が深めていくように、続けてほしいと思います。

御船が丘小学校で、自衛隊の方が避難されている状況です。

次の質問にうつります。

教育についてでございます。

武雄市はこれから取り組もうとしている、官民一体型教育、4年ほど前から武雄市に先駆けて、取り組んでいる学校があります。

長野県の北相木村という小学校なんですけども、7月に総務文教常任委員会(?)として、視察をさせていただきました。

長野県北相木村というところは、世帯数が360戸、人口が820人ぐらい。

標高的に900メートルぐらいの寒村でございます。

北相木小学校は、児童数が43名。

そのうち寒村留学(?)の児童が14名ということで、入学率が30%以上というような学校でございます。

そこでちょっと視察をさせていただきましたけど、学校のこの写真は北相木小学校の許可をいただいて、投錨(?)しております。

はなまる授業の様子です。

1年生から3年生が1クラスになって、4人ぐらいのグループをつくって、授業をしている。

これは、アイキューブといって、木製のブロックを使いながら、実際の操作実験をとおして、脳のイメージだけで事実を作って、裏から見た状態の図形を想像するとか、空間的な認識能力をのばす授業だそうでございます。

ほとんど1年生から3年生まで仲良く利用していました。

このシーンですが、授業の途中によくできたり、早くできたり、そういったときに先生方が褒める、そういう仕草をされているところ。

子どもたちも大きな声を張り上げて、一生懸命取り組んでいたところですよ。

この2人の先生方は、北相木小学校の教員の方なんですけど、私みたときは、花まるの方が指導されているんじゃないかというぐらい、本当に没頭されていて、子ども達と一緒に授業に取り組んでおられました。

黒板の前に立っている方は、新任の先生らしいです。

ちょうど私たちが授業に行ったときが、花まるのデビューといいますか、なはまるを授業を初めてやるというふうな先生でしたけど、ちょっと緊張していたが、非常にいい雰囲気です。

これは図面を一瞬見せて、思考力を確かめる、パターンメーカーという状態らしいです。

これは平面的図形ですね、認識能力を訓練する授業だそうなんですけど、ほとんどの子どもたちが、一瞬だけ見せて、すぐ直されるが、それを思い出して、子どもたちが4枚の図面を組み合わせて、どんな形だったかを、勉強されておりました。

カードを組み合わせて、図形化する授業です。

そこで、これからの教育について、武雄市はいろんなことを取り組んでいくわけなんですけど、市長は教育に命をかけるということを言っております。

これからの教育について、どのような考えでおられるのか、市長と教育長にお伺いします。

まず、教育長にお尋ねします。

議長／浦郷教育長

浦郷教育長／花まる学習会については、コメントを控えたいと思いますが、3点ほど申し上げます。

1つは現在進めている ICT 教育とか、外国語教育など、これからの子ども達に必要な力(ちから)をいかにしてつけていくかと。

これは今進めていますことも、文部科学省でも、県教育委員会でも方策としてさぐっているところですので、これからも力(ちから)を入れていきたいというふうに思います。

2つ目としましては、やはり、登校をしぶっておられる子どもさん、それから不登校傾向の子どもさん、実際武雄市もおられるわけです。

花まる学習会でいっておられる、メシが食える自立した人間ににいかにして育てるかというのは、保護者の方、家族の方、あるいは市民の皆さん共通の願いでもあります。

そういう意味で、今、各地で説明会等におきまして、そういう環境づくりについてお願いをしているところであります。

3つ目として、いま、今後教育委員会制度等も変わっていくわけではありますが、現在多くの代田教育監を始め、多くの方々が、武雄市の教育に支援をいただいています。

広い意味では、官民連携というような方策というのが、最も、進行できているんじゃないかというふうにも思うわけです。

そういう中で、市長がこれまでも発言されているように、中立性であったり、継続性、十分配慮した上で、またわれわれと連携した上で、教育の改革がこのように進められるということは、ほかの市、町でどうしても、うまく進めかねない大きな改革ができるということではないかというふうに思っています。

議長／樋渡市長

樋渡市長／武雄市のみならず、今までの、全国のオールジャパンの教育というのが、後手後手だった。

なにか問題が起きたら、対処療法的に、対応せんばいかん、いじめとかそうでしたよね。

そうならないようにするためには、後手後手ではなく、先手先手じゃないとダメで、これは教育のみではなく、あらゆる社会的なおかれている課題については、僕はそうあるべきだと思っている。

そういう意味で、佐賀新聞が僕は思惑なんかありませんから、武雄発の学びの改革という3回連続でシリーズ、これは力作ですし、読んでほしいですし、見解とは大きくずれている部分は当然ありますけど、これはこれですごく読み応えが、現状を分析するという意味

では今、武雄市の教育行政に対する中では最高のものだと思っております。
その中で、この中にも書いてありますが、私自身は、三本の矢を放ちました。
これ以上矢は放ちません。

放つかも知れません。

ですが今のところ放つつもりはないが、その中で、これからの舞台というのは教育委員会
なんですよ。

いま浦郷教育長は、私が知る限り、日本でも最高の教育長だと思っています。
褒めすぎですかね。

ですので、そういう中で、具体的な方針は教育委員会が中心となって、学校の現場の先生
と、あるいは児童生徒とよく顔の見える関係を築いてほしいと思っていますし、今文部科
学省自身が大臣を中心として、武雄市の教育に注目されているので、そういう意味では、
国全体がいま武雄市が取り組む前人未踏の領域に大きく期待されているというふうなこと
を思っておりますので、そういう意味で国、県、市一体となって、これから本当にいい教
育をぜひしていきたいと思っています。

長くなりましたが、私自身は小学校のときに不登校、保育園中退ですので、二度と僕のと
うな人間をださないということ。

だから早く日曜日にならないかなとか、みなさん思ってたでしょ、早く日曜日にならない
かと。

ね、豊村議員さん。

そうじゃなくて、早く月曜日にならないかなという、ワクワク、ドキドキするような特に
小学校をつくりたいと思っていますので、そういう意味で言うと官民一体型学校もタブレ
ットもありとあらゆる政策はその手段でありますので、手段が目的にならないようにして
いく必要があるだろうと思っていますし、最終的にはメシが食える魅力的な大人になるよ
うに、小学校の低学年の教育が最大の私は肝だと思っているので、よく家庭とも地域とも、
連携もとりながら、学校の先生に過度の負担がかからないように、私たち自身もきちんと
見守っていく必要があるし、浦郷教育行政が進めることを後押しをしていきたいと思いま
す。

そういう意味では私の役割は終わったと認識しております。

議長／4番 山口 等議員

山口等議員／先ほども話がでてましたが、官民一体型の学校づくり、地域協議会がいま各
地で設立をされています。

教育委員会として、説明会をされていますが、私も何回となく出席させていただきました。
そんななか、保護者の方の参加者が、非常に少ないような気がします。

各地区においても、区長さん等はいろんな機会があるごとに、協議会がありますのでぜひ

参加して下さいという呼びかけは十分したと思います。

それにしてもなんでこういう状況なのか、申請するところは手を挙げていただくという風な状況でございます。

そういった中で、この状況をどう思われているかお尋ねします。

議長／樋渡市長

樋渡市長／少ないのは仕方ないと思いますよ

一部の地区では多いところもあるが、一般的に少ないというのは、仕方がないことだともっています。

というのは人は見えるものでしか判断できないですもん。

恐らく、私は、これは議会の皆さんにも申し上げましたし、私は集会のところでも申しましたが、来年度からは、2校でスタートさせるということ。

その中で、私自身は、2校を選考したからといって、3校なるかもしれませんが、その中で、期待しているのは、契約期間が10年間、それ以外の小学校は対象にならないかといったらそれはそんなことはなくて、恐らく、選考するA小学校、B小学校、C小学校、になるかもしれませんが、そのあり方をみて、手をあげよう。

そうなってくると必ずメディアも報じますし、市民の皆さんたち、特に保護者のみなさんは、関心は倍加すると思うので、そう危惧はしていません。

われわれは少なくともきめのこまかい説明会をしていこうと思いますので、ぜひ議員さんにおかれても、市政報告会を、先ほど私は浦議員さんの市政報告会の中でも官民一体型学校というのはものすごく注目されている。

議員さんが市政報告会、県政報告会をやる中で、精一杯その場で説明の機会、私も参りますので、その場で説明をしていきたいと。

それとあと、PTAであったり、地域の伊万里だったり(?)というので、読んでくだされば、数は少なくとも、回を重ねるごとに、一人でも多くの保護者を中心とする地域の皆さんたちがこの官民一体型学校についての構想について、触れていただく機会を積極的に設けたいなということを考えております。

議長／4番 山口 等議員

山口等議員／説明会には、教育長が説明をされていますが、教育長のほうから、どういうお考えなのかお願いします。

議長／浦郷教育長

浦郷教育長／まず、議員の皆さま、それから区長様方に本当に感謝を申し上げます。
ほとんどのところで、なぜ区長がしなければいけないのかというような思い、声をお聞き
しました。

ただいま申しましたように、官民一体型学校づくりを考える機会として、本当に我が町の
学校、子どもたちのことを改めて強く考えてもらってるということ、それだけでも本当
に素晴らしい環境づくりになっているということ、実感しております。

現在 40 回ほど出向かせていただきまして、2000 名以上の市民の方と話あっているが、特別
保護者のかたが少なかったという思いはなかったが、ただ、実際に、それぞれの学校で、
ご希望等もあれば、これからも出向いていきたいと思ひますし、10、20 年の各校区の教育
体制づくりの根幹になるという決意でいきたいというふうに思っています。

議長／4 番 山口等議員

山口等議員／この武雄市は、今年度からお住もう課という部署を新しく設置されました。
おそらく、移住定住の促進にも進められているということですが、これは今では官民一体
型教育で移住といひますか、県外から移住してですね、官民一体型教育を受けようとした
場合、学校区に移住しないといひないのか、そのあたりどうなのか。
ほかの学校からの通学も可能なのか、そのあたりをお聞きしたいと思ひます。

議長／樋渡市長

樋渡市長／これはちょっと、きわめて重要な話ですので、私のほうから答弁をいたします。
原則は、例えばですよ、例を出して良いのかかわからないですが、若木小学校が指定校に、
官民一体型学校の指定校になったとする。

若木小学校が指定になった場合は、原則は、校区になるので、校区通学は大還俗になりま
す。

しかしながら、若木小学校にそういったお住まいがあるのかといったことについて、なか
なかそれは、空き家も含めて、来年の 4 月からという、かなりスピードになってきます
ので、そういう意味で、ちょっと柔軟に認めようと思ひています。

例えば朝日町であったり、今、朝日町では、アパートがどんどん増えていますので、武雄
町であったり、隣接する校区外通学というのは、一定期間、たぶん 1 年になるかと思ひま
すが、ここは柔軟に認める必要があるだろうと思ひています。

若木小学校だけで恐縮でしたが、東川登小学校とか、西川登小学校だとか。

そういったなかなか住まいがないところですよ。

については武雄町、朝日町から一定期間、私は 1 年と思ひています、校区内に転居する
予定の皆さん方には、そういった機会をぜひ提供する必要があるだろうと思ひています。

そして、もとより財源の問題もありますが、どれぐらい募集に応じていただくかというのは皆目わかりませんので、場合によっては、当該小学校に一定の市営の住宅をつくることもしいていかなければならないと思っています。

ただ作ったのは誰も入らないとなると、それは本末転倒ですので、そこはよくわれわれとしても、調査をして、そういったなるべく、小学校の校区、なるべく小学校の近くにそういった居が構えられるようになればいいなと思っています。

そういったなかで、ぜひご覧になっている皆さん方で、土地もお家も提供したいという方がいらっしゃれば、ここに電話をしていただければありがたいなと思っています。

いずれにしても、この件に関しては、指定の学校説明会を東京等で行うことになります。そのときに具体的に住まいについては、こうと、決めなくてはいけないので、早急に教育委員会を中心としてそういった方向性についても、詰めてまいる。

議会に相談をしながら、この件についても進めていきたい、このように考えております。

議長／4番 山口等議員

山口等議員／柔軟に検討していくということです。

小学校のタブレット授業が始まりまして、4カ月ほどが経過しました。

初めての導入で、いろんな戸惑い、トラブル等もあったと思います。

どのような環境だったのか、児童の学習に対する変化、どのようなことがあったのか、お伺いいたします。

議長／溝上教育部長

溝上教育部長／今年の4月タブレット導入しまして、基本的に、相対的に子どもたちは興味をもって、学習にいかしています。

そういう中で、トラブルですが、タブレットのトラブルにつきましては、初期不良、あるいは破損、そういったことで、全台で3000台のうちの約3%にあたる、約100台、メーカーのほうに送って、終了したところです。

そういうことで、その間各学校には、予備機を配置したけど、一時的にタブレットが不足するという事態も生じています。

ただ、その不具合の内容が半数以上が初期設定に戻すことによって、回復するというような事例が多いですから、現在担当課のほうで、そういう形での修理をしていますので、それ以降は、大きなトラブル等はあがっておりません。

議長／浦郷教育長

浦郷教育長／授業の内容等につきましては、よくわかったということで、よくわかったということで、94%の子どもたちがアンケートに答えております。

これは一回きりとかではなく、4月から7月までのトータルとして、そういうことであります。

授業が楽しかった児童についても、89%という結果が出ておまして、これは、当然学力意欲だけではなく、学力向上につながるものという期待を持っております。

議長／4番 山口等議員

山口議員／最初、まごつきというか、トラブルもあったかと思います。

この4月から中学校もタブレット授業始まりますので、その経験を十分ふまえて、対応してほしいと思います。

今回7月に行政視察に行かせていただきました、長野県の北相木村の話でございますが、このような話を村の役場の方からお伺いしました。

山村入学の卒業生の女性がその後、相木村の同級生と結婚して、村一番のおしどり夫婦になった喜ばしいお話。

または留学生として、北相木小学校を卒業して、都会の中学に入学したものの、どうしても学校が忘れられずに中学校に編入したというお話を村の役場の方からお聞きしました。

教育長がいつも言われます、教育は***という年代までは一番大事だと。

本当に私もそう思います。

今回視察にいったおりに、子どもたちの教育が、地域作り、学校づくりに、十分なことを強く共感いたしました。

これから先も始まる新しい教育ですが、より一層私自身も力(ちから)を入れて、新しい学校作りに取り組んでまいりたいと思います。

以上申しまして、私の一般質問を終わらせていただきます。

議長／以上で、4番 山口 等議員の質問を終了させていただきます。

ここで、議事の都合上、午後1時20分まで休憩をたします。

* 休憩中(11:56) *

議長／休憩前に引き続き会議を開きます。一般質問を続けます。

次に、20番 牟田議員の質問を許可いたします。ご登壇を求めます。

20番 牟田議員

牟田議員／議長の許可をいただきましたので、一般質問を開始いたします。

今年は、雨、雨、雨。

そしてもうひとつ雨、いつも、雨がふっていました。

農作物の影響も心配、ほんとにココキテナイッスネ(?)、心配です。

雨といえば、私が昔聞いた話ですね、雨降り族ってのがいるらしいです。

その一族が雨乞いをすると、必ず100%雨が降る。

とにかく、渇水の時は、雨がふらないときは、その人たちが踊れば100%雨がふるという一族があるらしい。

不思議に思って調べたら、100%ふります、なんでか、ふるまで踊っているから。

降るまで、雨が降るまで踊るから、100%雨が降る。

行政も逆を言えば市民です。

市民が納得するまで、市民が十分満足するまで、執行部もわれわれ議会も実行し、頑張らなければいけません。

その意味において質問をつづけさせていただきます。

1番、武雄市のデザインについて、2番観光、3番、4番、5番とあります。

1時間になりましたので、駆け足で行きたいと思いますけど、まず武雄市のデザインについてであります。

デザインは大きくいえば2つあります、ホントの意味でのデザイン。

目で見えるデザインですね、ブランドデザイン。

例えば1つの例で言うと、新幹線が来たときのデザインはどうしよう、こういうときがあったときのデザインはどうしよう。

ブランドデザイン、この2つがあると思います。

じゃあ武雄市は上のほうの本当のデザインは、いま現在どうなっているのか。

多くの方々がこの武雄に視察にきています、そういう中でですね、市報を皆さん方で配っているんですね、視察を行っている(?)とか。

市報の評価が抜群に評価がいい、デザインが素晴らしい。

これは、図書館です。

日本デザイン振興会の「グッドデザイン賞」の金賞をとりました。

デザインという面で、武雄市はこの部門でも評価されてますし、さっき言いました、いろんな面で武雄市のデザインは、評価されています。

これは、表紙ですね。

だいたいこれぐらいか、地方の表紙、配って参りました。

このこれも、市報の表紙です、これ消防団のですね、これも市報の表紙。

これ見るとほんと旅に行きたくなる、なんだろう?って目をひくような表紙で、写真の写り(?)も素晴らしい。

これも市報です。

これも、ずっとおしゃれなデザイン、目をひくデザインで来てます。

これは一番新しいデザイン。

これはわかりましたけど、目をひきますよね、やっぱり。

こういうふうに、やっぱりデザインっていうのは、力(ちから)なんだなというふうに思います。

武雄市において、今後デザインというところに、どのように力(ちから)をいれていかれるか、思っているのか。

たとえばこのあとですけども、これフェラーリですよ、これもフェラーリです。

これは、なんだっけ…蘭車(らんしゃ)か。

やっぱりですね、これはイタリアですよ、イタリアの車ってのは、まずデザインから目を引く。

イタリアっていうのは例えばグッチ、フェラガモ、アルマーニ、いろんなデザインの集大成でやっています、武雄市もそのデザインで目をひいてさらに中身も良ければ素晴らしいことだと思いますけれども。

まずデザインの面でこれから武雄市は、どのように力(ちから)を入れていこうかと思っていられるのか、これを最初にお伺いしたいと思います。

議長／樋渡市長

樋渡市長／これから武雄市が目指すデザインの方向性はシンプル、コンパクト、インパクト、この3つです。

そしてあと2、3年かかるとは思いますが、たとえば表紙に武雄っていう、あるいは武雄市っていうロゴがなくても、これ武雄ねってわかるようにしていきたいと思っています。

シンプル、コンパクト、インパクトです、はい。

議長／20番 牟田議員

牟田議員／やっぱりデザインっていうのはものすごく大切だと思うんですね、さっきいったように最初に目に入る部分。

これはですね、御船山さんのホームページ。

いま本当の意味の玄関、例えば市役所玄関っていうよりも、いまですねホームページが玄関になっている。

市外、県外、世界の玄関は、武雄市の見解(?)はホームページってのが大きな役割をしています。

この御船山さん、なんで、ちゃんと許可取りました、撮らせてくださいと。

なんで許可を取ったかという、御船山楽園、いまの社長——そのされるとき大体年間お客さんは1万人だったらしいです、年間。

どうかしようということで、まずホームページに力(ちから)をいれようということで、変えられました。

いまちょっとつらつら出しますけども、こういうふうに変えてこられました。

いま結果どうなったかという、年間1万人が、たった数年で年間17万人なったそうです。今年で年間20万人を目指すというふうに言われてます。

こうやってホームページの玄関の入り口、市の顔ですね、1つの、は、やっぱり力(ちから)を入れていかないといかんなど、話を聞いてつくづく思いました。

これ武ナビですね、もの凄く言いデザインだと思います。

これ観光協会ちょっと出しましたけど、こういうデザイン、そしてホームページっていうのは、これから力(ちから)をいれていかんといけんところじゃないかと。

これ1つの例ですね、私は会社で楽天に出店しました。

楽天に出店していて、そのホームページも手作りで、ビルダーとか作ってやっていた。そんなホームページ業者に何十万円もやらず自分で作ろうということでやりましたけど、結局ダメでしたね。

たとえば自分で作ったら年間、月30万とかの売り上げは確保できたが、ほんとのプロがやったら月200万とか300万とか。

ほんとに違って、結局手はひいたんですけども、やっぱり餅は餅屋に任せないかんなど思っていました。

いまやってきました、これは、観光協会のホームページ。

これはたけお競輪のホームページです。

ちょっとベタですね、昔私が自分で作っていたホームページに似てます。

これはですね、若松ボートですね、これちょっと画像わるいですが、バナーがついていてるんなことができます。

これは同じ競輪の、平塚競輪、湘南ダービー、これも湘南ダービー、ずっとやりました。

まずここで伺いたいと思いますけども、市はそのホームページの1ページの作成料はどれぐらいかかっているのか、年間、これをお伺いしたいと思います。

議長／平川つながる部長

平川つながる部長／ただいま手元に具体的な数字については持ち合わせていないので、すぐ調査をして、ご回答申しあげたいと思います。

議長／20番 牟田議員

牟田議員／自分で決算委員会の資料もらったんで調べました、年間150万です。

武雄市がホームページの運営の年間のお金は、150万円。

これ多いか少ないか。

さっき、共産党江原議員さんが広告の話をしました。

私は前回の質問のときに、旅費はどんどん食ってくれと、将来の投資だからということで言っていました。

やっぱりね投資をちょっとしないと、このあと伸びないと思います。

だからさっきいいました、ホームページビルダーでワカゾウ(?)で作るのもいい、でも餅は餅屋できちっと伸ばすべきものは伸ばしていかないといけないと思っております。

いつもよく質問では、あれは使いすぎじゃないか、これは変じゃないかって言いますけども、やっぱり使うべき所には使っていないと武雄はこれからさらに伸びることはできないと思いますし、さっき言いました、この玄関。

競輪を何で出したかという、競輪はやっぱり事業をこれから伸ばしていかなくやといけないところなんですね、まずは余力があるうちに。

いろいろ調べました、武雄市は決算委員会のほうで去年出とりましたので、大体年間 150 万てのは把握しとりました。

平塚競輪、平塚競輪はさっき出したところ、湘南ダービー。

ホームページの制作費は 1600 万。

さっきのページは 1600 万かけられている。

年間ホームページの維持費は、競輪だけです、競輪だけで 1100 万。

武雄市は全てのホームページの維持費で 150 万、平塚競輪だけで、1100 万。

やっぱりここで力の入れ具合が違う、もちろん売り上げ事態も違いますけど、こんなに差はないです。

次、若松ボート。

若松ボートは年間ホームページ維持費は、3550 万。

武雄市全体の競輪も含めた観光も含めたすべてのホームページの中の 20 数倍の予算を、この若松ボートで使ってます。

そういう中で確かに経費は削減せにやいかん、ぼってんですね、締めて締めて締めすぎるのもどうかなっていうところもあります。

たださっき言ったように丸ごとこれを真似してくれっていうのは、少なくとも、例えば、これの3分の1、4分の1ぐらいは使って、より同等以上の効果を出すべきじゃないかと思っております。

次いっちゃおうかな…これは Facebook のホームページですけども、いま言いました年間の武雄市のホームページ、すべての競輪も含めてすべてのホームページの年間運営費は 150 万。

競輪とかこういっただけでこれぐらい使っているんですね。

いま大きな例を出しましたけども、今後武雄市の…さっき言いました表玄関はホームページなんですね、さっき言った Facebook でありホームページだと思います。

その辺のところで、もっと力(ちから)を入れて先に投資してくべきではないかと思いますが、いかがでしょうか。

議長／樋渡市長

樋渡市長／まず方向性とすれば、競輪のホームページはご指摘があつて見たんですけどね、あまりにもダサイ。

あれだったら競輪の車券買おうって気にならないですもんね、ですのでまず競輪のホームページを抜本的に変更します。

変更した上でスマートフォンあるいは携帯電話で車券が買えるようにしていきたいと思えます。

そういった中で、より幅広い層を呼び込むためには、暗に…まあもちろん本場とかね、本場開催だったりとか、いろんな所で買うってのもいいんですけど、いまほとんど買い物はスマートフォンとか携帯電話でできますもんね。

そういう意味で、いつでもどこでも車券も買えるようにホームページそのものも作り替えて。

そこにはもちろんデザインってのが必要ですので、若松ボートであるとか先進事例を見ながらしていきたいというふうに思っています。

このための予算というは、しっかり費用対効果があるって見込まれますので、そこはしっかりかけていきたいなというふうに思っています。

まずなんちゅうんですかね、ファン層の広がりからすればね、この武雄の競輪のホームページは抜本的に見直します。

早ければ年明け、年明けに新たなものができるようにしてまいりたいというふうに思っています。

4月に大きな大会が全体でありますので、それまでには少なくとも間に合うようにはね、このように考えております。

ですので牟田議員をはじめとして、先進事例はぜひまた教えてほしいなど、このように思っております、以上です。

議長／20番 牟田議員

牟田議員／今、競輪のほうやっただけのことと安心しているんですけども。

やっぱりこういうふうなんです、競輪自体がいま縮小傾向にある中、よそは辞めてってるけど武雄頑張っているんですね。

頑張ってる余力があるうちに力を入れてそれ維持していくということで、ぜひ今の答弁で安心しました。

これからもそういう気持ちでやっていただきたいですし、できれば市の全体の運営予算 150 万こっこのほうを…これ武雄市ですね、これ Facebook を市にした、ということでものすごく視察も来ましたし、これ知っている人は知っているし、知らない人は知らないけど、当たり前のお話ですけども、フェイスブック本社、武雄来られたんですね。

武雄来られて筑前殿(?)に泊まられて、なんかうちの Facebook を市のホームページにしたクレイジーな市があるということでわざわざ来られた。

それぐらいやっぱり注目を浴びる玄関なんです。

もし良ければ、さっき言いました観光協会、市のこのページ、さらに充実させていっていただければと思うんですけども、いかがでしょう。

議長／樋渡市長

樋渡市長／確かに今までいけてないホームページが、もう 3 年前になります、3 年前の 8 月 11 日に切り替えまして、1 日アクセスが 5 万だったのが、かえた瞬間から 300 万になった。

いま正確な数字は取れませんが、おそらく 1000 万近くになっている。

だから今までのいけてないホームページの 5 万が、今 1000 万近くになってるっていう意味では、市のホームページをフェイスブック化したってのは一定の効果があったと。

しかしやっぱり光があれば陰もあるんですね、いろんな指摘があったときに、市のホームページ、フェイスブックページで、動きのあるものはフェイスブックでいいんだけど、例えばゴミの収集日の話であるとか、たとえば引っ越しであるとか、子育ての情報、出産のときの情報であるとかってのは、どっちかっていうと動的というよりも静的、静かなものって意味での静的なホームページがいいんじゃないかということも結構いま指摘が、注目を集めれば、集めるだけありますんで、これを牟田議員の質問をきっかけに、ちょっと方針を変更します。

動的な動きについては市のフェイスブック今まで通り行います。

しかしここに出ております、たとえばくらしの便利帳とか、観光情報、市政情報とかお知らせとかっていうものについてはホームページを作ります。

作った上で、これをフェイスブックと上手く連動させるようにして、動と静が組み合わせられて武雄の住みやすい、いい玄関口にしていきたいなというふうに思ってます。

その流れで、観光協会の理事長を 2 年間、仰せつかっていますので。

その間に観光協会のホームページも抜本的に変えて、牟田議員、よくご存じだと思いますが、入っていますので、最初申し上げた、コンパクト、インパクト、あとなんて言いましたっけ。

ちょっと忘れちゃったけど。

シンプル、コンパクト、インパクト、全体の主旨を揃えていきたい。

もとよりこれは市民の皆さんたちにとって、特にホームページはね、見やすく、見やすい、特に見やすい、使い勝手のいいものになりたいと思っているので、これは少し時間がかかりますので、できればあれです、年明けくらいに変わっているといいなというように思っています。

スピードをあげて、これについても対応したい。

ここで、3年間の方針を改めて、今度またある意味戻すことをしたい、このように思っています。

議長／20番 牟田議員

牟田議員／以前は旅行は、情報誌っていうのはじゃらんであり、いろんなもの見てきました、今やっぱりホームページなんですね。

もうひとつは、FacebookとかそういうSNS。

こういうふうに見やすい、入りやすい、さっき御船山さんの例を出しましたが、ぜひ投資をしていただきたい、力(ちから)を入れて先行投資をしてほしい。

私は先ほど言われた電車の広告費のいくらってのは大賛成。

それによるプラス効果がいくらあるか、化粧品会社が広告に売上げの何割を使っているのか、自動車会社が売上の何割使っているのか、それに考えたら、投資というのが必要だと思いますが、いかがでしょうか。

議長／樋渡市長

樋渡市長／ここは牟田議員さんと同じ見解が違いましてね、いいものをつくるのに投資はあまり意味がない。

それよりはどこでやるのかということです。

例えば、図書館がなぜあれだけの87%の人たちを魅了したかと考えた場合、これは巨額のお金を投じたわけではなく組み合わせたのはCCCからなんです。

ホームページもなぜ、これほど田舎の小さな都市に、世界的な注目が集まったのはこれはFacebookと組んだから。

ですので、私はどこと組むかっていうのが、よっぽど投資額より大事(だいじ)ですので、もちろんいま、私どもと組みたいっていうのが山のようにきている。

ですので、そういった意味で、市民負担を、投資は市民負担ですので、それをなるべく減らしながら民間の活力を組み合わせるといことで武雄市の魅力発信を内外にしたい。

その結果かかる経費については、牟田議員さんと同じだと思いますが、十分に付けて費用対効果の面からしても、市民からなんでこんなにつけるんだという御指摘がないようにしていきたい、このように考えております。

議長／20 番 牟田議員

牟田議員／先ほどいわれましたように、組むところも大切だと思います。

そして、さっきいった新しいホームページには、競輪のリンク、観光協会のリンク、その2つのリンクを上手に、これさっき出したんですけどもやっぱこの辺リンクだらけなんですわ。

上手にリンク貼ってやっていただければと思います。

ぜひ、そういうふうに変えていただければ、これからも訪れる方は多いと思います、これ Facebook のことですね。

では続いて、さっき1番、2番、今度は観光のほう。

市のデザインってところで含めて、1番、2番、観光も含めて、楼門 100 周年記念が今度行われます。

楼門に関して、この 100 周年記念大変大きな事業ですので、どのようにこの体制を組んでいこうと思われているのか。

そのあと、武雄市は 10 周年控えているんですね、武雄市。

17 年でしたか、18 年、もうすぐ来ます、そういうのも含めて、武雄市の 100 周年記念事業、どのような体制で持っていこうと思われているのか、どのような計画があるのか、ぜひ伺いしたいと思います。

議長／北川営業部長

北川営業部長／武雄温泉楼門は来年 100 周年を迎えます。

その前に、今年の 12 月に東京駅が 100 周年を迎えるということで、来年 4 月に武雄温泉楼門が 100 周年を迎えるということもあわせまして全国的に PR する絶好的な機会であると考えています。

具体的な取り組みとしては、現在検討しておりますが、観光協会や旅館組合との連携でやっていきたいと思っておりますが、記念イベントやツアーの企画、情報雑誌への掲載、記念グッズ、ノベルティの作成、また、東京駅の 100 周年が前もってあるので、その記念イベントへの出店等も含めて考えています。

また、町中数カ所に、100 周年記念の***をはかるために、横断幕の掲示、あるいはいろんな町のイベントがすでにございますが、それに冠をつけて実施をしていくということで全体の気運の上昇をはかっていきたいと考えています。

いずれにしても、現在検討中それから、すでにはじめているものもありますが、盛り上げていきたいと考えています。

議長／樋渡市長

樋渡市長／たぶん、この答弁のままじゃ、盛り上がりませんと思います。

ですので、皆さん御存知かどうかわかりませんが、東京駅の改修式のセレモニーは、当時内閣総理大臣だった大隈重信公なんですよ、大隈重信公が東京駅を起点として四方八方に光が飛び散るような駅にしたいということをおっしゃった。

したがって、私どもは単にイベントではなく、そういう東京駅は、したがって、辰野金吾博士の労作であると同時に、丸の内、東京駅の北側の丸の内の煉瓦町の地域っていうのを開発したのは、唐津藩の同じ(?)曾禰達蔵(そねたつぞう)博士なんですよ。

ですので、そしてそれをオープニングしたのがまさに大隈重信公であるとするならば、あれは***がやった話なので、これは、やっぱり便乗です。

値上げの便乗はよくありませんが、こういうイベントの便乗は絶対大事(だいじ)だと思いますので、東京駅に紐付けします。

東京駅と武雄温泉の楼門をうまく組み合わせて、人・物・金を呼び込むということをしていと思っています。

さっき、副市長が、ぼそぼそと、いつもぼそぼそ言いますが、言っていたのは、ほかと同じことをしても出てこないということですので、これはちょっとしばらく私どもに任せてください。

その上で、議会によく相談の上、出していきたいなど。

当たり前を当たり前のようにしてもだめでね、そこは少し、かなり工夫の余地があると思いますので、それは私が先頭に立ってやっていきたいし、よく議会にも相談をしてみたい。

議長／20番 牟田議員

牟田議員／楼門100年、先ほど東京駅と、同じことしたら目立たないですね。

やっぱりさっきいった、10周年も控えています。

有田の作陶400年ですか、それも控えています、ほんとに今呼び込むチャンス。

いっぱい呼び込んで、そのあと何がくるかという、東京オリンピックがある。

東京オリンピックまで、あと5年しかないのに、5年の間にいっぱいいろんなイベントをしていって武雄をどんどん売り込んでいく、さっきのホームページにつながります。

ぜひ、こういうことをしてどんどん売り込んでいっていただきたい、それか、さっきいったこと組むというのがありますが、やっぱり投資だということでは言わせていただきます。

これに向けて、このとき外国から***ですもんね。

ぜひ、こういうところに向けて、計画的にやっていけたらいいと思います。

先ほど市長がおっしゃいましたが、光を外に飛ばすということをおっしゃいましたが、こ

の前…頭の話はやめてください。

この前ですね、私が感動したのが、図書館にチームラボ、これ見た方いらっしゃると思いますが、すごいやっぱり幻想的で、光とさっき言われたので、ほんとに素晴らしかった。

これは、チームラボのいろんなイベントのやつです。

こういうふうな感じでですね。

これは大体、10、20万という数字で万人単位でお客さんが来られるらしいです。

これも、そうですね。

ただこういうのは、そのあとにも使われる、10周年記念にもそのまま使える、そのあとのオリンピックにもずっと使えます、ごめんなさい。

こういう中で頭に思い浮かべるのが、長崎のランタン祭り。

ランタン祭りも、光を会場にだーっとやって会場にこういうのを設置されて、いまやものすごい、何十万じゃなくて百万単位の事業になってきています。

そういう中ですね、やっぱりこういう非日常的な部分を人は求めると思うんですね、私自身チームラボさんと話したこともないし、ただ見てただけです。

見てただけだけど、すごく感動して周りの人たちも言っていました。

佐賀県が誘致ってことで聞きましたが、こういう、さっき手を組むところを考えないといけないということでしたので、こことは申しませんが私自身が実際見て感動したので調べたら10万人単位の集客力があるということで、ぜひこういうのを非日常的な感じでやっていただきたいんですが、その辺のお考えはないのかお伺いしたいと思います。

議長／樋渡市長

樋渡市長／まだ正式にはお願いしていませんが、猪子さん、僕がすごく仲良い人なんです、猪子さん率いるチームラボに、今回の楼門の100周年の記念事業の一端をぜひお願いをしていきたいと思っています。

これは、チョウナイで整理がついていませんで、チョウナイで整理が付いて、猪子さんはめちゃめちゃ忙しいので、お受けされるかどうかはわかりませんが、私自身はこれは、牟田議員も同じだと思いますが、できる人をお願いするのが大切だと思います。

この画面を使わせてほしいんですが、これはただ単に色がついている、なんて言うんですかね、丸、なんていうんですかね、ボールじゃないんです。

これ、重ねれば色が変わっていくんですね、重ねれば、色が変わって行って、だから、子どもがものすごくはしゃぐんです。

ですので、そういう意味で、猪子さんの作品は、単に光っているだけじゃなくて、要するに光の中に動きがあるということなので、ぜひ、そういう意味で、子どもたちですね、次の世代を担う子どもたちが、今度の楼門の100周年を、単にライトアップするのではなく、こういったものを入れ込むことによって体感できるって、現代のテクノロジーのすごさと、

それと武雄市の持つ歴史と、辰野金吾博士の 100 年にもつながるように、業績がきちんとつながるようになっていうのは、私は観光協会の会長でもありますので、そこはしっかりやっていたいと思っています。

いずれにしても、来週、猪子さんに会う機会があるので、私のほうから正式にオファーしたいと思います。

議長／20 番 牟田議員

牟田議員／やっぱりインパクトですよ、それと子どもが喜ぶ、そして集客できる。

それこそ、さっきいったホームページとかいろんな部分を組み合わせて、観光協会のホームページ、どんどん宣伝できればと思います。

で、いまちょっと、話で、Facebook の話から思いついたんですが、武雄市役所は、友達が 1000 人以上の方、そろそろいるんですね。

そういう人たちを集めて、例えば、チームオーバーサウザンドではないが、そういう人たちに宣伝していただくとか、そういうのも 1 つの方法だと思います。

そういう SNS を使ってですね、ぜひ、こういうのを使って、さっきいった、これから、有田の 400 年、そして、武雄の 10 周年、最終的にはここまで使う長期の計画で、こういうことでやっていただきたいと思います。

これによる経済効果、そして集客効果、そして知名度アップ、これをぜひ実現していただきたいと思い、質問のほうで出させていただきました。

いいました、ランドデザイン、いま言いました、デザインとランドデザインを合わせた、観光についてであります。

ずっとこういうふうにあるわけですね。

タケサン通信にあるんですが、タケサンさん通信に関してもやっぱりこうやって、いろんな場で PR していただきたいという意味でちょっとお話しさせていただきました。

*** させていただきました。

で、次、いろんなランドデザインがありますが、教育に関してのランドデザイン。

いまずっとデザインの話をしてきました。

教育で初めてランドという言葉を使いましたが、いま、いろんなデザインを書かれてると思いますが、例えばとっかかりの、例えばタブレットがありました、この次に花まる学習塾がきました。

ぜひですね、さっきいったデザインの中で、一部しか、まだ描いて提示していないのに、全部わかったのがないんですね。

まだ、描いている途中の部分もあります。

それを見て、全部全体の判断はなかなかできない。

われわれが一番ちょっと、以前、苦勞した部分で、市民病院の民間委譲のときに、やっぱ

りですね、説明を設けないで、風評だけで、こうしちゃ困る方がいっぱいいらっしゃるって、そのとき市長は、医療の全体のランドデザインを書かれていました。

ところがほんの一部のデマしか聞いてない人が、みんなそれは、という方が大変多かった。行政側も、いろんなところに説明に行かれてた。

そういう中で、私自身も例えばさっき、この花まる、これは私が行って、直接写真撮って、詳しくしたのですが、まだ期間はあと短いですが、やっぱり内容をどんどんこう外に外にしていけないといけないし、それを判断する一部のところはやっぱり来てくださいと、呼んでそして判断していただいたら、さっきの病院と一緒に、ほんの一部の風評、デマとかでダメになるとか…。

まずここで、こういう中で1つお伺いですが、まず、これは、あれなんですけども。

例えば、来てほしいってのは町単位でありますよね。

町単位で、ぜひ、説明に、風評に来てほしいとかはありますが、例えば、育友会、保護者会、PTA。

そういうところからの、要望ってのはどれぐらいあるんでしょうか。

さきほど答弁でなかなか来ないといいますが、わが子どもの将来のことを、さきいったほんの一部のつまみぐいとかなんとかで判断されては困る。

私は以前小・中学校のPTAの会長させていただいて、やっぱり心配だからそのときは、ちょっと市役所さんきてくださいと、説明して、保護者のかたに、説明したいと思えますと来てると思うんですよね。

そういうふうな要望がきているのか、はたまた、そんな返しがいいのか。

その辺のところをお伺いしたい。

議長／溝上教育部長

溝上教育部長／説明会等の要望ですが、いろんな形、各教育委員会によると、例えば今回は町民対象、今回は保護者対象、そういう要望合わせて、ずっとあがってきていて、これまで40数回、それについてはすべてうちの方から説明にまいています。

教育委員会さんが設定されて、育友会さんを対象に、という形がっております。

議長／20番 牟田議員

牟田議員／自分が聞いたのは、***はPTAできてくれと、要望を出されていたらしい。あとはあまりきていない。

私が心配してるのはやっぱり一番苦労した、市民病院の誘致のときに、そういうふうな、なかなか周知できないのに、そういう風評、一部のつまみぐいで、判断されてしまいかねないのは、心配ですが、そういうふうな、たとえば判断しないのにアンケートとるとか、

なんとなつていうのは、やっぱり心配なんです。

その辺のところ、執行部は、そのようなことがないように、どのように思われているか、やっぱり、わからないのに、アンケートとれないですよ。

知らない人に対して。

だからそういうところを、どのように対処しようとしているか、お伺いしたいと思います。

議長／浦郷教育長

浦郷教育長／確かに、わかりにくい部分もあろうかと思ひます。

で、1年前、モデル校という形で始めた、始めると、この1年間モデル校という形で、武内小学校にお願いして、そしてきちつと決めてしまうのではなくて、この間に考えていただきたい。

実際に授業も見ていただきたい。

そして総務文教委員さんに直接行つてみてもらつたりしたりと。

そういう形でぐつと理解を深めていただいと。

そして各校区で、しつかり協議会を立ち上げて考えていただいと。

そういうなかで、議会中でもすでに、説明に来てくれという要望もあります。

したがいまして、速急に、賛否云々じゃなくて、しつかりと協議を、機会をもつていただき、私どもも、そういうことであれば、要望ありましたら、極力出向くようにしているで、そういう不明な点を減らした上で、ご案内いただきたいというふうに思つております。それが、官民に限らず今回に限らず、先ほど申したように、長い期間での教育関係の整備というふうに思ひますので、そのあたりをぜひ、お願いしたいと思ひます。

議長／20番 牟田議員

牟田議員／1点目ですね、病院と同じようになつてはいけない、たとえばある団体が、まだ市民に十分納得できない、アンケートをとつた、やっぱり市民もわからないから不安つて書きますよね。

だからそういうこと、そういうようにならないように、きちんと、なんていうんですか、それをふまえて、例えばする側つていうか、アンケートをすくかもしれんが、でも、知らない人に向かつてできないですよ。

だから、それを心配している。

病院と病院の時となんか、同じようになるのではという心配です。

知らない人に向かつてアンケート取つて、アンケートはこうですよと出されるのが心配なので、ぜひその辺を注意してふまえていただきたいんですけども、いかがでしょうか。

議長／樋渡市長

樋渡市長／あれ、ちょっとね、お聞きになった方、わからないと思います。

このやりとりが。

それでこれ、ほとんど、事の発端が、私は、きのう、楼門朝市に、なんですかね。

消防防災訓練の前に出掛けたときに、ある保護者が私のところによってきたんです、保護者が。

保護者がやってきましてですね、若木小学校の育友会の会長名で保護者各位にこういうアンケートがきてる、ということ。

これ市長はしっとったですか、ということなんですよ。

で、私知りませんよね、そんな。

で、これ私もびっくりして。

この段階で、何も情報提供もないまま、しかも、先ほど、答弁もあったように、この方々は呼ばれてもいないわけですよ。

そういったなかで、アンケートを取ることが、僕はこれつぶしとしか思えないんです。つぶしとしか。

これ病院のときにさんざんこれを味わいましたので。

ですので僕はこれは良くないと思うんです。

そのなかで、ただし、保護者の皆さんの意見を聞くのは大事。

これはアンケートが一番いいと思うんですね。

で、それもやっぱりタイミングとどこがやるか、ということ。

したがって、私は、ほかの校区にも及ぶ話なのであえて申し上げますが、アンケートはぜひひとつしてほしい。

その場合にも、とってほしいっていつてるじゃないですか。

とってほしい。

で、取って、その上でそれを変更の時の判断基準にしたいと思います。

変更の時の。

だって臨まれてもないものをやるのは僕は本意じゃないので。

だから少なくとも 70%の保護者の皆さんが、やっぱりこれはぜひ官民一体学校にしたい、してほしいといったところに私は是非その時の判断基準に加えたいというふうに思っている。

その上で、じゃあどこがアンケートをとるかというのは、僕はこれ学校がいいと思う。

学校が、つまり育友会とかではなく、学校が責任もって、主体となって、地域協議会と、きちんと協議をした上でアンケートをとると。

公表するかいなかについては、それはお任せします。

僕は公表しても全然いいと思っています。

ぜひそういう段取りを今度の協議会の場合でも、ぜひその問題設定をしてほしいと思う。
ですので、さっきいった話戻りますが、楼門朝市の遠きにお見えになった保護者はものすごく不安がっていた。

こんなアンケートとったら、反対で6割～7割超します、だってわからないから。
そうあってはならないと思いますので、ぜひ、民意というのは大事(だいじ)です。
大事ですが、聞くタイミングというのはやっぱりしっかりわれわれが説明して、意見交換をした上で最終的に選ぶと。

選ぶというふうにぜひもって行ってほしいなと思っているので、このアンケートについては9月5日付けで、流れているんです。

これを撤回しろとは言いつもりありませんけれども、ちょっと私はこのやり方については、甚だ疑義を持っております。

議長／20番 牟田議員

牟田議員／これがさっきいった、病院の例と重なって見える。

病院のとき、本当に苦労しました。

市長も苦労されたと思います。

この議会の中でも、賛成派、反対派ありましたが、やっぱり苦労しました。

いろんな部分で飛び火して、一部しかわからない、そんな不安があるので。

ぜひ今回はですね、いま市長が言われたように、きちんとした、把握した上でやっていただけのようなアンケートにやっていただきたいと思います。

では、次の質問に移らせていただきます。

次は、周辺部対策。

これはみんなのバスと日輪号の関係ということで質問させてください。

これは日輪号。

毎週1回、いろんなところでバスが回ってくる。

日輪荘、日輪号は大きいので、なかなかその場所まで歩いて行けない、その地区まで、バス乗り場まで、歩いて行けないっていう、結構多いんですね、周辺部の方。

特に周辺部は、道が細いので、なかなか行けない。

こういう時に、さっきいいました、みんなのバスを活用できないか。

もちろんこれは地域で、いろんな各協議会で運営していくもんですが、そういうことが可能なかどうか、こういうことができるのかお伺いします。

議長／樋渡市長

樋渡市長／可能です。

議長／20番 牟田議員

牟田議員／うちの町の、長野の行きたいけども、ここの日輪号に、場所まで行けない、乗り場所までいけない。

本当に多いです、各地たぶんですね、結構いらっしゃると思います。

そういう中で、このみんなのバスを利用して。

そうやって日輪荘の、乗る場所までいけたら、週1回まわってきますが、本当に楽しみにされているんですね。

古賀会長も、元のスミ部長さんもいらっしゃいますが、ものすごくそういう面で、力(ちから)をいれてらっしゃることで、ぜひやっていただきたいと思います。

さきほど可能ということですけども再度、答弁をお願いしたいと思います。

議長／樋渡市長

樋渡市長／これ、可能といいましたが、私ども独断と偏見ではできないので、一つの流れとすれば、よく地元で協議をされたいと思います。

地域ニーズに沿って、地元で協議された上で、最終的には日輪荘に繋がる話になりますので、社協に申し入れるということにもなりますので、いくつか手続きがありますので、よく私どもの、担当課と調整いただきながらようは認可ですよ。

得られるように、ぜひそういった努力をして、地元の皆さんで汗をかいてほしいなど、このように考えております。

議長／20番 牟田議員

牟田議員／周辺部は本当に助かる。

喜ばれている、これ昨日敬老会がありました。

そういう中でもこういうことを言われました。

その場所まで歩いて行けないので、なんとかできないか。

今の答弁で、党としても、われわれもそういうふうにするようにして協議していきたいと思います。

では、続きまして、ITインフラ整備。

これは前回から質問しているところです。

光通信の整備、そしてワンストップ行政。

前回の答弁で、ものすごく良い答弁をいただきました。

そのあとケーブルテレビさんと比較論で出しましたよね。

ものすごいメールきましたよ。

ものすごいメールきました。

連絡来ました。

ものすごく来たんです。

で、そういうふうなこの光通信網の整備、今後、どのようなスキームでやっていただけるのか。

そして、ワンストップ行政。

これはうちの父が先般みまかったときに、ものすごく手大変だったんですね、手続き。

やっぱこれは早くせんといかんというふうに、特に思いました。

この2つの進捗状況をお伺いしたいと思います。

議長／樋渡市長

樋渡市長／2つというのは、光通信ケ整備の中の2つでしたっけ？

ワンストップ行政の中の…。

まず、高速情報通信網の整備で、光、光の部分ですよ。

これについては、平成 27 年度にもう事業を開始します。

開始した上で、皆さんと私、議員さんと私の任期中の平成 29 年度末までに全地域でのサービス開始の予定をします。

ですのでそれに応じて、いってこれはもう、事業者と二人三脚で進めるということになりますけれども。

いろんなところで光通信のメリットが享受できるようにしていきたいと。

これは周辺対策の一環もありますので、それはそのようにさせてもらえればと思っております。

そして、光以外にも、高速情報通信網そのものですよ。

これは私の公約にも記載をしていますけれども、これは市街地、特にこの周辺、人口に満ちている周辺については、公衆無線 LAN の整備も進めていきたいと思っています。

ですので、ちょっと私、杉原議長とセバストポールに、1 週間前ですかね。

わりと仲良くいっていた時に、一番困ったのは、セバストポールからちょっと離れると、びっくりしたのが何もつながらない。

サンフランシスコから 1 時間しか行ってないところなのに全然繋がらないところがある。

しかも、こういう Wi-Fi とか、ようするにインターネットが繋がらないならまだしも、電話すら繋がらないといったところなんで。

いかに情報通信のありがたさ、というのがちょっと、それは、身につまされて、私はその当時、滞在時にブログ書いていて、これは困ったというふうになったんですけど。

それと比べると今の武雄は進んでいるのは、進んでいる。

なおかつ、動画が主体になっていますので、そういった、動画の中身がストレスなく見れるようにするといったことについて、で、これ住むところによって区別があってはならないと思っていますので。

周辺、先ほど申し上げましたように、周辺部の対策も含めて、ここはしっかりやっていきたいなと思っています。

議長／平川つながる部長

平川つながる部長／ワンストップサービスの状況でございます。

これにつきましてマイナンバー制度ときわめて密着に関連していると理解している。

現在、マイナンバー制度、これに基づきます、関連します窓口での関連業務、これの洗い出しをしております。

マイナンバー制度につきましては、27年、来年の10月から、個人番号が具体的に付与が開始されるという状況でございますので、これらの全体の国のスケジュール、これにあうように、現在、業務のほう進めているところでございます。

議長／20番 牟田議員

牟田議員／市長はさっきさりと云われましたけども、その、通信網の整備をいたします、というのは、多分ですね、ものすごく多くの方が喜んでいらっしゃると思います。

で、びっくりされている方も多いと思います。

やっぱりですね、こういう情報通信網の整備っていうのは、周辺部対策に大きく関わってくる。

市長演告で、定住促進という言葉を使われました。

そういう定住促進するためにはですね、この通信網、高速網は不可欠だと思います。

あまり使わない年代の方はわからないと思いますけども、わからないかもしれませんが、やっぱりものすごいインパクトですよ、周辺部まで来るっていうのは。

田舎に住みたい、でもそういう通信網がいけない。

例えば昔でいう双方をやりたいけど、それができない。

工業団地を作っておきたいけど、工業団地の膨大なデータのやり取りがなかなかできない。

そういう中で、それが周辺部、田舎でもできるっていうのは、ものすごいインパクトだと思います。

さりと云われましたけども。

何人かが、おおという声があがりましたが、やはりこれはですね、ぜひ実現していただきたいと思っていますので、再度お伺いしたいと思います。

議長／樋渡市長

樋渡市長／昭和 30 年代が最大の工業事業っていうのは僕は道路だったと思うんですね。

ちょうど、私は吉川議員さんと家が、実家が近くでね、私が一番最初に家の前の記憶にあるのが、砂利道だったんですね。ですが、だんだん物心ついたときに、それがコンクリートに置き換わって、アスファルトに置き換わっていったときに、ものすごく家の周りが静かになったんですね。

で、さっきあそこの、まちづくり部長と話してたときに、うちの石橋幸治さんが、まちづくり部長の***の家の前を歩いていったときに、真っ白やったと。

要するに、砂利道だらけでね、あの人性格も白いですけど、服まで真っ白になったと、いったところで、それが恐らく昭和 40 年年代、まあ 50 年前半だったんですね。

で、話***になりましたけども、今度の昭和 30 年代、40 年代の道路が実はこの IT のインフラが、その時期なんですね。

ですので、新たな公共事業として、私自身は担当部とともに捉えています。

新たな公共事業として。

これは費用対効果にしても、昭和 30 年代の道路、そして、今の平成 26 年かな、の道路整備では意味が違うじゃないですか。

もうもはや。

そういう意味でいうと、これは費用対効果も含めて、先ほど牟田議員さんからもありましたように、大量のデータがほしいというのは、どこの工業団体の方もおっしゃってるんですよ。

ですので、そういう意味で新たな公共事業として位置づけたいと思っていますので、ぜひそういう意味での整備促進を IT 特別委員会の中でも、いろんな前向きな議論を、コストも含めて話をしてほしいな、このように思っております。

議長／20 番 牟田議員

牟田議員／繰り返します。

さらりと言われますけども、たぶんですね、鹿島も有田も伊万里もびっくりしていると思いますよ。

やっぱりそれぐらいみんな、やりたいのをなかなかできないのを、こうやっていただく。ぜひ、実現していただきたいと思いますし、IT 委員会でもそういう話題を提供していきたいと思います。

では、最後の項目です。

子育てについて。

これも、市長演告で、いろんな定住をはかりたい、いろんな人たちを引き入れたい、そし

て武雄はことしから、去年からですね。

流出人口よりも、流入人口のほうが多くなる。

そういう中で、この子育てっていうのも1つの大きな鍵だと思います。

もちろん今武雄市に住んでいる方、子育てをしている方、そして外から来られる方。

外からそうやって来られる方の多くは、たぶん核家族の方が多いと思うんですね。

そういう中で、子育てをどのように、ちゃんと武雄は充実させてらっしゃるのか。

ここの部分をもものすごく関心があると思います。

以前、三興会長、そして前自治会委員(?)のオオツボ先輩より、いろんな企業が来たり、外から来る人とかっていうのは教育と病院だと、いうことで何度も言われています。

外から来るときに、やっぱり子育てがですね、定住、いろんな面で武雄魅力があるね、行こうか、住みたいなっていうときに、さっき言ったように核家族が多いと思います。

そういう中でぜひ、子育てのほうも充実していただきたい。

今度、新子育て三法が始まります。

国のほうで計画されています。

子育て三法、これは、今度消費税10%アップが前提なんですね。

で、10%アップしたうちの、7000億をこの子育てに年間充てますよ、と。

さらに初年度は3000億プラスして、初年度は1兆円使いますよというのが今度の法なんですね。

そうだったですよ、多分。

多分じゃない、そうです。

そういう中で、その3項目かな…

あと5分ですね。

3項目の中の途中の項で、地域の実情に応じた要請をしていく、要望を聞いていく、という部分がある。

そういう中で、これもその条文書いてありますけども、子ども・子育て会議を中心として、要望を、地域の特徴を持った要望をどんどん出してください、ということでもあります。

武雄は今言った、デザイン、いろんな面で優れている。

ぜひですね、周辺部の、周辺部というか武雄の周りの市と遜色ないじゃなくて、やっぱり武雄がいいねと、武雄市でもいいねじゃなくて、武雄がいいねと言われるようなこの子育ての計画を出していただきたいと。

これは、外から流入人口に大きく関わりますし、今、子育てをしている方々の満足度をアップさせてあげる。

そして、なんて言うんですか、満足度ですね。

福祉の向上のために、計画していただきたいと思います。

時間は短いとは思いますが、ぜひ、こういう計画を出していただきたい。

お願いしたいと思いますけども、いかがでしょうか。

議長／樋渡市長

樋渡市長／振り返ってみますとね、これは議会の絶大な応援をいただきましてね、市民病院の民間委譲が皮切りになって、図書館であるとか、今は教育であったりとか、さまざまな今まで前人未踏の領域に進んできています。

そして今までこれを例えば3本の矢と例えれば、4本の矢はいよいよ子育てだと思っています。

そういう意味で、小学校からは今、例えばいろんなプログラミング教とか、スマイル学習とか、官民一体学校とか、まあ給食も今度手を入れますけれども、そうした中で、順調に今進んできて、ちょっと足りないのは就学前のところなんですよ。

あるいは赤ちゃんを、お産みになるお母さん予備軍の皆さんたちのケアがちょっとやっぱり足りない、というところ。

そしてこれ、一人親の皆さんたちも増えていますので、そういう方々の徹底的なケアですね、温かいサポートですよ。

こういったものを含めて、今度はそちらのほうに。

もう教育は、教育委員会にこれからやっていきますので、今度は子育てに、私も政策でやっていきたいなと思っています。

今もとより、吉牟田さんが、猪村さんが教育委員だったときに連れて来られたね、吉牟田先生が、ものすごく評判が内外からいいんですね。

ですので、吉牟田さんと心中します。

心中、向こうは望まないと思いますけども。

その上で、場所も含めて、今の北方も場所も含めて、企業も含めて、あと健診センターの話も、さまざまな議員さんからも御指摘がありますので、そういったことも含めてね、ハード、ソフトで、抜本的に見直そうと思っていますので、ぜひ議会のほうからね、子育てする方もいっしょに子育て終わった方々もいっしょにいますけども、そういった意味でまた御指導がいただければ有り難いなというふうに思っています。

その目に見える形として、長くなって恐縮なんですけど、まずキッズライブラリを、まず先陣切ってやっていきたいと思っています。

それに関連して、子育ての総合支援センターでありますとか、健診のスペースでありますとか、あるいはお母さんたちが集まるようなね、ところであるとか、これを一気にどーんじゃなくて、できるところから、スピードをあげて、順々にやっていくと。

それも市民の皆さんたち、特にお母さんの意見を踏まえながら、いいものを作っていくというふうに思っております。

したがって、われわれの任期が切れる、人気がある人もない人もいますけれども、任期が切れるときには、武雄市ってああ子育てのまちになったよね、教育・子育てのまちになっ

たよね、と。

終わるときは任期満了のときだと思っていますので、私は、決して辞めないということを申し添えたいと思います。

議長／20番 牟田議員

牟田議員／武雄市でいいじゃなくて、武雄でよかった、武雄がいい、というふうにぜひこれからの子育て支援お願いいたしまして、質問を終了いたします。

ありがとうございました。

議長／以上で、20番 牟田議員の質問を終了させていただきます。

ここでモニタ準備のため、10分程度休憩をいたします。

* 休憩中(14:20) *

議長／休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

次に、10番 上田議員の質問を許可いたします。

ご登壇を求めます。

10番 上田議員

上田議員／皆さん、こんにちは。

ただいま議長より登壇の許可をいただきましたので、これより10番 上田の一般質問を始めさせていただきます。

今回、教育について、それからまちづくりについてを質問項目とさせていただいております。

今回楼門の写真を使わせていただいておりますけれども、観光には質問は及びません。

ただ来年の100周年に向けてこの画像は使わせていただきたいなあと、貼り付けております。

それでは早速質問に入りますけれども、まず教育について。

武雄市の、今もう話題になっております教育改革、スマイル学習に、官民一体学校が2本の大きな柱になっているのかなと思っておりますけれども、先ほどの、4番議員の質問でもすでに答弁ありましたけれども、小学校のほうで導入されております、タブレット端末。

先ほどの答弁でいきますと、3000台ほど、導入したものの、3%は、およそ3%が初期不良だったと話を伺っており、大体100台前後じゃないかなというところの答弁でした。

それはそれでいいんですが、とりあえずの段階の対応としては、予備機を使つての対応し

ているということでございます。

その後はどうなるのか。

予備機を使って、対応をするけれども、その後、その予備機がまた充当されていって、学校の対応、万が一の破損だったりとか、そういう場合にストックとして、積み重ねられるのかどうか、そこらへんを確認をさせていただきたいと思います。

議長／溝上教育部長

溝上教育部長／先ほどのタブレットの不良というかですね、申し上げましたけれども、具体的な数字といたしまして、約 100 台程度が不具合があった。

その内ですね、初期設定というか、初期不良は、約 60 台です。

約半数ちょっとです。

あとはタブレットの表面、ガラス面を取り替えたというのが、30 台。

あと部品交換が 10 台。

内訳としては、おおむねそういうかたちで。

そのうちの…

全体で 3% であります。

約。

そのうち、それで台数的には 3% の分で、約 100 台というふうになります。

その内訳が先ほど申しました分で、パーセントは、0. いくらくらいになります。

それぞれの中で。

その中で、今初期不良は先ほど言いましたけれども、初期設定に戻すことによってほとんどが可能でありますので、それは一時期担当課のほうで預かって、すぐに返せますので、あとは各学校に置いております予備機で対応ってということで、ほとんどトラブルとはなっておりません。

議長／10 番 上田議員

上田議員／初期不良の話をちらほら耳にしたのですが、ちょっと気になったのですが。予備機で対応されて、で、その後また私はもともと最初に思っていたのは、予備機は、もし万が一壊したり、破損があったりとかという話が合ったときに、どうするんだってのが、だいぶ議論があり、それで対応するということなので、一時期、初期不良は、私もなかなか頭になったので、ちょっとそこが気になりました。

それでは続いて、官民一体学校についてです。官民一体学校についてですが、これも、すでに新聞各種報道などでもかなり評判になっていますが、これも先ほどの質問と、若干かぶるんですが、地域協議会について質問をさせていただきます。この地域協議会、そもそ

もの目的というのが官民一体学校の導入を検討するという位置づけで協議会の設置するという認識で私はおるんですけど、巷では、いろんな見解の違いがあり、そこらへんがはっきり、もう一度確認をさせていただきたいですが、いかがでしょうか。

議長／浦郷教育長

浦郷教育長／目的は官民一体学校の導入を検討していただく、それで間違いありません。

議長／10番 上田議員

上田議員／そうですね、それで間違いなければいいんです。これが、各地域の設置状況は、ということでもございましたが、先ほどの答弁の中に、すでに9校区が協議会を設置して、残りの2校区は、いま準備中だという答弁だったと思いますが、ここでいろいろ協議会で、私のほうにも話をうかがうが、一番多い2点のご紹介したいと思います。導入の目安っていうか、そこをちょっと言葉があまり、良い表現がなかなか見つからずに、目安としたのですが、どこまで実施すれば官民一体学校と、手をあげたことになるのかというのが、これまでに1日1日、スケジュールを出されてたんですよ、過去、これまでの議会の答弁で。朝月曜日から金曜日まで。で、朝のうちから、モジュール授業とか、青空教室、プログラム、時間割等が出ていましたが、やりたいが、このとおりはなかなか難しいと。でも、そこらへんは、柔軟に、各学校の裁量で、対応していいのか、そこらへんを具体的に話してほしいということでしたが、これについて、答弁をお願いします。

議長／浦郷教育長

浦郷教育長／えっと、算数の勉強ばかりで…。お話にありましたように、結論としましては、各学校と花まる学習会との話し合い、協議によって、子どもたちに一番いい形はどれかということになるかと。それまでいまお話に出てまいりましたいまの、イメージとして、時間割のイメージとして…。朝の青の濃い時間をモジュールとし、金曜日の午後の2時間、青の濃い時間を青空教室という形で、イメージを示してもらいました。これはモデル校としてやってもらっている、武内小学校で、考えた場合はこういう感じじゃないかという1つの例です。先般、きょうも話に出ていますが、北相木小学校などでも、朝の時間でなく、業間でもってくると、具体的にはなってくる。

また、北相木ならではの、オリジナルとか、そういうような名称などを、学校独自のものが出てこようかと思えます。

要は子どもたちにとって、あるいは地域の状況、学校の状況から一番やりやすい形ものをやってもらう。目安という言葉が非常に曖昧な言葉だが、ようするに、花まる学習会のノ

ウハウなり、あるいは考え方等をいれた時間というのを設定することになる、ということと考えております。

議長／樋渡市長

樋渡市長／きょう見解の相違ですね。私は官民一体学校というものは、その通りいくかどうかはありますが、基本的にこのカリキュラムは、花まる学習会と、学校の先生たちがセットになって出す物ですので、指定校の中でやる話だと僕は思う。この部分は、モジュールがいいから。例えば、指定校以外のところでやるってなると、全体の発想のつまみ食いにはならないので、僕は反対です。

議長／10番 上田議員

上田議員／私が聞きたいのが、モジュールが、この朝の時間に、ずっと入っていると。月曜日はなんとか集会とかそういうのが結構入っているということで。北相木小学校の視察にいったときに、2時間目と3時間目の間の業間の部分で、モジュールが取り入れているというのがありました。

もし武雄で手をあげたい、やりたい、取り組みたいという学校があったときに、対応が可能なのかという、そこを確認したい。

議長／樋渡市長

樋渡市長／それは可能です。学校裁量です。

だから、僕が聞き間違えたのかもかもしれませんが、官民一体学校外の話だと勘違いしていた、官民一体学校の指定校の中で、例えばA小学校がこのままいくのであれば、それはそれであり。学校の独自性からB小学校になった場合、先ほど仰ったようにモジュールが3、4時限目の間にというのも、これはありだと思いますので、学校裁量だと思うので、教育長と見解は同じです。

議長／10番 上田議員

上田議員／そこらへんは柔軟に対応いただけるということですね。それでは、切り替えてもらっていいですか。

それでは、次のもう1点。10月より公開授業の実施、あおぞら教室の先日の実施。公開授業が実施されました。それ以外に聞きたいことは、要はテレビで出た、モジュール授業が実際見たいと、実際学校現場でやるとどういうふうになるのか見たいという声が、結構あ

るんですよ。今のスケジュールからいくと、先日武雄町内の説明会の際の教育長の写真ですが、今、9月なので、8月27日の武内小学校は、終了していますが、10月にもう一回あおぞ

ら教室があつて、14日、21日にモジュール授業の公開授業が…ごめんなさい、14日はモジュール授業開始ですね。10月21日に公開授業がモジュール分でやっていくと。

ただそうなるとう公開授業の申請が10月下旬に迫っているので、公開授業を前倒ししないかと相談を受けたりするんですが、なかなか難しいもんですかね、そこら辺は、答弁お願いします。

議長／浦郷教育長

浦郷教育長／大変申し訳ないですが、これがぎりぎりのスケジュールです。モデル校として、いろんな意味で公開をしてもらっております。

そして、やはり、この前の、あおぞら教室のやはり、高濱代表、花まるの先生方来ていただいて、わかりやすいわけです。

そういう意味で、モジュール授業は、武内の先生にお願いしたいと思っている。ずっと公開等も続いておりますので、ぎりぎりまで相談して、このスケジュールです。あとがきつくりますが、どうかご理解いただきたいと思ひます。

議長／樋渡市長

樋渡市長／これは上田議員のお気持ちはよくわかります。で、これは前に教育長から答弁ありましたように、例えば、福岡に花まる学習会の提携の塾がありますので、一緒とは思いませんが、官民官民一体型学校と塾が一緒とは思いませんが、僕も何度か見ましたが、近いものがあります。あおぞら教室よりもモジュールのほうが近いというのがあるので。ご希望とあらば、そういった見学のプランも立てていきたいと思ひます。十分な、そこで早く見て議論の上で決めるというのは、ありうるべき姿ですが、ただし学校の現場にすごく負担をかけることにもなるので、先ほど教育長が申し上げたとおり、日程の前倒し…ちょっとしんどいなと思ひます。補完的な話として、そういった塾の見学会の開催をしたいとこのように考えております。

議長／10番 上田議員

上田議員／おっしゃるとおりです。学校現場に負担感が増すと、なんともいいようがない。福岡の塾でそこらへんで対応をお願いしたい。そこはPRももっとやっていただきたいと思ひます。私は、存じ上げていますが、ぜひお願いします。

それでは、続きまして、これは、新しくなった、武雄小学校です。小学校、質問をあげたのが、今、全国的に学校給食がセンター方式に向かっていたり、自校方式になったり、両極端に向かっていると思う。私の武雄市は、食育に力(ちから)を入れてもれている関係で、自校方式に向かっている。

先ほどの質問にもありましたが、自校方式で外部委託。要は学校で作ってそれを子どもたちに食べさせる、素晴らしいと思うが、今回、武雄小学校が改築になった関係で、実現したのが、もともと自校方式でやられていた。今回新しく自校炊飯が武雄小学校は実現している。本当に炊きたてのご飯が子どもたちの口に運ばれているということで本当に嬉しいことだと思うんですが、市内では、まだセンター方式というところもありますので、自校方式を頑張りたい。市内の中で、自校炊飯だけでも、実行できる学校、実施されているのが、橘小学校、若木小学校。今回カイシュン(?)によって実現したのが、山内の東小、西小、山内中学校に武雄中学校。現在この6校が自校方式での学校給食を実現しておりますが、できれば、なんとか別の学校でも自校炊飯を実現してもらいたいと思っているところですが、これについての見解をお願いします。

議長／溝上教育部長

溝上教育部長／自校炊飯につきましては、さきほどありましたように、食育面からも、教育委員会としても、推進したいという立場にあります。ただ先ほどもありましたように、新しく学校を作る際は、もちろん設備整えられますけど、既存の設備の中でそういう施設があるのか、どうなのか。先ほどありましたように炊飯の機械、あるいは洗米機器そういう機材を入れなければなりません。現地を調べさせていただきながら、学校の要望等をききながら、推進していければと思っています。

議長／10番 上田議員

上田議員／自校炊飯をするとなると、給食室にその分のスペースが必要になってくると思います。今回、自校炊飯をするとなると、設備を整えることでできる学校と、給食室を改造しないとできないという学校、そういう差があると思う。改造するとなると、なかなか簡単にはいかないけど、設備を入れることによってできる学校があればぜひ実現をしていただきたいと思います。

それでは、続きましてまちづくりについて。武雄市文化会館の大ホールが、老朽化によってランニングコストの高騰。アセットマネジメントの考えから、複合体育館の構想がでいます。

これは白岩体育館ですね。

文化会館の大ホール。

ここら辺が、老朽化によって、また今回、複合体育館の話、午前中にも答弁が出ておりました。

それ以外にもですね、キッズライブラリーの構想があったり、先の議会では、競輪場も、いろいろな答弁をいただきました。

それ以外にもまた、市役所の本庁の庁舎のこともあります。

今回は、庁舎、競輪場とは、ちょっとまた切り離して、まず、キッズライブラリー、文化会館と白岩体育館。

この3つが、非常に関連性が高いのかなと思ひまして、ちょっと質問させていただきますけど、先の議会で、複合体育館5ヘクタールの土地を今年度中に場所特定したいと、希望ですけどという答弁だったと思うんですが、5ヘクタール誰か紹介してくれんやとか、寄付してくれんかという答弁があつたんじゃないかなと思うんですが、まず、この場所を特定したいというのがありました。

キッズライブラリーも、大ホールの跡地へということで、選挙公約もあるし、駐車場の不足も解消しないといけんからということもありました。

この中で、結局、今武雄市が抱えている、このハード面の課題というのが、いろんなところにあるんですけど、今後これをどこからどのように進めていかれるのか、その辺の話を伺いたいと思っておりますけれども、方針があれば御答弁願いたいと思ひますけれども、いかがでしょうか。

議長／樋渡市長

樋渡市長／これは、やっぱり全体のブランドプランを立てる必要があると思ひています。

その上で、ところてんになると思うんですね。というのは、選挙公約にも出していますが、キッズライブラリーが一丁目一番地ということになります。

ですので、今の文化会館の跡地のいずれかの場所に、景観であつたりとか、鍋島の庭園をきちんと保全した上で行う。

その中で、例えば、あの広大な敷地に、キッズライブラリーだけということには多分ならないと思ひますので、その在り方については、吉川里巳議員にお答えしたとおりに、市民の検討委員会並びに、その車の両輪として武雄市議会に特別委員会をぜひ設置してほしいと申し上げています。

その上で、じゃあ、ところてんの先のほうになります。

文化会館の大ホールになるのか、小ホールになるのか、あるいはその施設になるのかという3つの大きな機能がありますが、どこにどう移転するか。

あるいは、白岩体育館の在り方について、どうするかということについては、私自身、再三申し上げますけれども、複合体育館として、5ヘクタールの土地にしたいと思ひますが、先ほど申し上げたとおり、議会の特別委員会で、しっかり議論をしていただいて、

市民合意がかなり必要になります。

病院のときよりも必要になってきますので、ぜひ議論を深めてほしいと思っています。

そういった中で、私たちとしては、できるところからやっていきたいというふうに思っております。

一方で、財政負担の問題になってまいります。

一方で、新しい庁舎の問題もあります。

あと、お金のかかる公共施設、例えば、公民館であるとかね。

ってというのが、寿命を迎えつつあるところもありますし、維持管理費にお金がかかるところもあるので、実際の財政のプランを横目で見ながらね、順をおって、本当は全部やるのが一番いいと思うんですけど、なにせところてんですから。

だから、おいしいところてんになるように、してまいりたいと。

そして市民合意がきちんととれて、市民の皆さんたちが、これならいいよねと思ってくださるような全体の計画にしていきたいというふうに思っております。

議長／10番 上田議員

上田議員／わかりました。ありがとうございます。

今話を聞いていて、ちょっと私が、もう1度整理させていただきますけれども、ところてん方式になっていくだろうと。

その際に検討委員会なり、議会でも特別委員会をとということでしたけど。

そこで方針を決めるのをそこに投げるわけじゃないですよ。

グランドデザインの道しるべというか、方針あつての検討委員会だったり、議会の特別委員会であったり、議会の特別委員会だったりっていうような感覚でいるんですが、それはどうですか。

そこから検討していただくような格好になるわけですか。そこら辺を答弁お願いします。

議長／樋渡市長

樋渡市長／これは、新しい庁舎のやり方です。

ごめんなさい、私が答弁があまりうまくなくて、ちょっと誤解を招いてしまったんですがね。

新しい庁舎の在り方についても、まず、庁内で幹事会を作りましてね、全体で、私も入りますが、全体の、最終的には協議になるんですけども。

そこで決めていく段取り。

そのときどきで、素案の段階であったりとか、中間の段階で、議会に、特に特別委員会にお示しをするということで、相互でねっていく形を、新しい庁舎においても、そういうふ

うにしてきましたので、素案を、まず私ども行政のほうで作って、政治の世界になげて、その一方で先ほど申し上げたように、庁舎よりも市民合意がさらに必要になってきますので、私はこれ、モウタ(?)さんに、ぜひ会長になってほしいと勝手ながら思っていますが、その三者で練っていくことになっていこうかというように思っています。そして、繰り返して恐縮ですが、一定期間に集中するのは、私ども財政運営がとてももたないので、財政の計画を横で作りながらね、していきたいなというふうに思っております。

議長／10番 上田議員

上田議員／そうですね。

いっぺんにやれるなら、それが一番いいんでしょうけど、いっぺんにやるとなると、老朽化も一気にありますし、そこら辺よくよく考えてほしいのですが、そこら辺はまた次回にしたいと思います。

それでは続いて、九州新幹線の西九州ルートについて、質問に入りたいと思います。

これも、新聞記事で15年度概算要求で、開発28億円という新聞報道もあります。

この西九州ルートは現行計画でいけば、2022年にフリーゲージトレインの方式で計画されているわけでございます。

この計画でいっても、2022年にフリーゲージとなれば、2020年の東京オリンピックにも2年まだ間に合っていないわけございまして。

間に合わないのであればというような考えも、ちらほら伺うんですが、まずこの現行、現在の計画ですね。

フリーゲージトレインが、従来の在来線が1067mmの***をガイドレールを使って、1435の標準機の寸法で走らせるというような自走変換というような形の機関に合わせて車輪の左右感覚を変えることができる電車ということで、計画をされているわけですが、今回、武雄新図書館のフリーゲージが、私はちょっと、課題が山積みじゃないかというところでね。緑色のこの部分ですね。

ここについて、今回質問をさせていただきたいなと思っております。

まず、時間短縮効果なんですけど、博多から武雄。現行が特急で66分が、フリーゲージになると、約60分と。6分の時間短縮効果があるようには到底思えないわけですが、これについての見解を求めたいと思います。

議長／友廣営業部理事

友廣営業部理事／お答えしたいと思います。

新幹線の効果については、高速性、安全性、定時制等があり、フル規格で走らせることで、最大限の効果を得ることになります。

このことから、フリーゲージトレインの問題としては、まず時間短縮効果が薄いということがあげられます。

モニターをお願いします。

モニタをごらんいただきたいと思います。

現在の計画による新幹線改良によって、変化する九州を鉄道時間地図としてあらわしたものでございます。

博多・長崎間は、143km で、1時間 48 分、博多・鹿児島間が、289km で、1時間 20 分ということで、普段描いた九州地図とは大きく異なった地図というふうになっています。

次に、具体的に説明をいたしますと、平成 23 年に全線開通した九州新幹線鹿児島ルートは、新幹線開業前には、博多・鹿児島間は、特急で 4 時間 22 分かかっておりました。

これが、全線開通後は最短 1 時間 20 分と、3 時間強の短縮となっております。

一方、西九州ルートは博多・長崎間は、現行 1 時間 48 分のものが、フリーゲージでは、1 時間 20 分と、わずか 28 分の短縮しか望めません。距離は、鹿児島ルートは、西九州ルートの 2 倍ありながら、時間はほぼ同じということになり、現時点では西九州ルートの高速度の効果は薄くなります。

これをフル規格にした場合、博多・長崎間は 40 分と、大きく時間短縮がはかられます、さらに、武雄温泉までの時間を見てもみますと、現在最速で 1 時間 6 分を要しておりますが、フリーゲージでは、先ほど議員のほうから御説明がありましたように、新幹線のレール幅は約 1 m 44 cm。

これを、在来線のレール幅 1 m 7 cm への変換が鳥栖と武雄の 2 カ所で必要になりますので、約 60 分ということで、わずか数分の短縮しか望めません。これをフル企画で整備を行いますと、最短わずか 20 分で博多まで行くことが可能となりますので、時間的には大きなものがあります。

このことからフリーゲージトレインについては、時間的な短縮効果が薄いというふうに考えております。

議長／10 番 上田議員

上田議員／モニターをお願いします。

もう本当に、今、答弁いただいたように、時間短縮効果がなかと思うとうですよね。

今回ですね、私が思うのはやっぱり、武雄温泉から佐世保まで、ここをフリーゲージで結べば、博多までの時間短縮で、現在よりもおよそ半分の時間で博多までの移動が可能になると思うわけですよね。

フリーゲージをここから導入して、ここはフルでということではいけばですよ、佐世保から、そういう時間帯で博多までの移動が可能になるんじゃないかなと思いますので、ぜひこちら辺を考えてもらいたいと思うところでございますが、続いては、踏切等の安全面につい

てでございます。

踏切の安全面については、在来線区間の踏切、県内はおよそ 90 箇所。

武雄市内も、高架にしたことによって、8 箇所の踏切がなくなりました。

それでも県内でおおよそ 90 箇所の踏切が残っている状況で、そういうながらも、それでもまだ市内にはこれだけの踏切があります。

ほとんどこのつてるのは北方が多いんですかね。まだまだこれだけの踏切が存在しているわけでございます。

これは、まだ記憶に新しいと思うんですが、平成 25 年の 11 月 5 日に起きました事故ですね、列車と大型トレーラーが接触をしたということでの事故です。

こういうことが実際起きています。

運行本数比較ですが、こちらが現在の特急電車が上下 32 本、普通が上下 30 本、合計 62 本になるが、これが現行計画のまま行くとすると、上下の特急電車が 96 本、64 本とうで、おおよそ 3 倍ですね。

普通は、本数は変わりませんが、トータル的には 2.03 倍の増加になります。

ただし、これは計画区域の佐世保線の部分に限ったことなんですよね。

というのは、結局、武雄らへ辺は、武雄では、この 2.03 倍増になりますが、たとえば、長崎線の走っている場所、それとか唐津線、肥前山口よりより先ですかね、そこら辺になるともっと不便になる。

さらに久保田とか、路線にまで行けばもっと増えるわけです。唐津線に入ってくるので。

そういうわけで、非常に踏切の遮断時間も伸びるんでないかと懸念されていますが、そこら辺についての見解をお願いします。

議長／友廣営業部理事

友廣営業部理事／議員さん御指摘の通り、安全性の問題も考えられます。

モニターのように、現行でも特に朝夕の通勤時間帯には、渋滞が発生しています。

現行の計画のままでは、先ほどご紹介がありましたように、通過列車の本数が現行の 62 本から 126 本ということで、約 2 倍になるので踏切の遮断時間も倍以上となり、今まで以上の渋滞を引き起こすことが考えられる。

さらに、先ほど新聞記事の紹介もあったように踏切事故、それから大雨等による線路等の冠水による影響等で、安全性や定時制という、そういう新幹線の効果が大きく損なわれるということが危惧されます、以上です。

議長／10 番 上田議員

上田議員／渋滞の映像、画像を出していただきましたが、遮断時間が大きくあがってくる

わけです。

果たして現行計画が可能なのかというようなちょっと***しておりますけれども、これについては皆さん記憶に新しいところがございますが、7月の3日大雨による鉄道の、大雨でかなりの影響が出た日がありました。

徐行規制が、朝の4時44分に徐行規制が始まりまして、運転見合わせが11時3分。

私これを調べるまで、4時44分に電車が走ってることも知らなかった。

実は、うちの娘も電車をつかって通学しているが、6時9分の電車に乗って、10時過ぎに佐賀駅にやっと着いたと言ってた。

そこから今度、バスにも乗れんという状況だったらしくて。

かなり、市民の皆さん、県民の皆さんにも影響が及んだわけですが、これもですね、そのときも運転見合わせ解除が6時半、6時26分に運転見合わせが解除になりました。

この時点でも、私もですね、実は娘がもう電車が完全に止まっている状態ということで、部活動全部禁止になって、いっせいにみんな帰りなさいとなったわけです。

電車もものすごく混んでいるわけで、さらに肥前山口もとにかく行けんということで、何かもう迎えに来いってというような感じになって、そういうことを経験しました。

そのときが、運休復旧が約20分、***が約30分、この約というのは部分部分で運休したりしてる部分もあるということで、約という言葉がついてるんですけど。

今回の計画のままいけば、在来線で運休する線路を新幹線が通るといような計画があります、そういうふうになります。

それでいいのか、ところです。

それと、既存のレールがフリーゲージの重量に耐えられるのか、という懸念する声も実はあります、というのはかもめの車両が従来38トンらしいです。

N700系の新幹線というのが43トン、山陽新幹線とかが走っているところの車両が43トン。今回はフリーゲージトレインも、今、改良に改良を重ねて2トン減らすことができたという前提で、43トンまでできているということです。

改良に改良重ねているので、これからさらに、もっと軽量化ができるのかといわれると、なかなか難しいと思っております。

で、従来の700系でも43トンなので、ここに既に5トンの開きがあります。

43トンというのは車両の重さなので、これに乘客乗せるとなるとさらに重量が増していくわけで。

実際にのぞみ、ごめんなさい、みどりとか乗っていても、結構、踏切って痛んでるんじゃないかなと思うような感じもするので、それがどんどんどんどん重くなった車両が走るとなると、非常に怖い部分があるんじゃないかなと思っております。

専門家の話によると、構造が複雑で精密ということで、狂いの少ない線路まで要求をされるという話も伺っております。

先日ある講演会で、イマムラ代議士の話を伺ったのですが、秋田新幹線のこの三線軌条、

従来この在来線は赤い車幅で走るわけで、三重新幹線(?)が緑、グリーンのところ。線路は3本しかなくて、要はどっちの車両でも使うこの線路の摩耗が激しいというような話もされていた。

ですので、これもあまりよろしくないなという言い方でした。

以前あったのですが、秋田新幹線の脱線事故、大雪によつての脱線事故でしたが、やっぱりこういうレール…在来線を使つたりとかしているからこそ、こういう事故が起きたと私は個人的に思っているんです。

フル規格になれば、大雪が降ろうと除雪機能もついているらしくて、そういうことを考えれば、非常にフル規格で考えていかないといけないんじゃないかなという気がしております。

ここで質問になりますが、フリーゲージの開発目的は理解します。

要は在来線を走りながら、標準機の新幹線のレールに入っていくことができると、いうようなために、開発されているわけですが、果たして本当にその機能を活かす機会があるのかどうなのか。

つまり、山陽新幹線乗り入れが実現するのかどうなのか。

ここら辺の見解をお伺いしたいと思います。

ある専門家によればですね、かなりJR西日本はもう拒んでいるという話も聞いていますし、既に何かダイヤも過密過ぎて結構状況が厳しいという話を聞きましたが、これについての見解をお聞きします。

議長／樋渡市長

樋渡市長／お名前は言いませんけど、JR西日本の幹部と知り合いと、ちょっと話したときに、もう笑ってました。

誰がそういうことするんですかと。

ですので、そうですね、実際博多行くまでトップスピードで来て、そこからフリーゲージになって鈍幹線になってってなったら、それはビジネスにならないですもんね。

しかも、そういったら乗りませんよって言っていましたよ、乗りませんって。

ですので、相互乗り入れは、僕はないと思っている。

JR西日本は、非公式の場だったので、だいぶ勢いを込めて言われたと思うんですが、以前ね、ちょっと考えにくいねということ言っていました。

上田議員からありましたように、確かにもう過密なんですね。

今、九州新幹線が相互乗り入れで、もともとあったところにさらに入ってきていて、今度、長崎新幹線が入ったときに、あれ名前がよくないですね、西九州自動車じゃなくて、西九州新幹線ルート、名前がよくない、西九州って一般的じゃないですもん。

もう長崎新幹線でいいと思いますけどね。

ですのでそういう意味で言うと、相互乗り入れというのは***だと思っています。

そして、僕もフル規格でやるべきだと思います。

昭和 60 年に、環境アセス(?)が 80%以上終わっている。

そこに戻して、1年か2年か3年かわかりませんが、遅れることになっても、やはりフル規格が大切だと、そのように思っている。

そうすると、相互乗り入れということが、実現がすごく近くなるんだろうなという認識をしています。

上田議員／まさにそうだと思う。

要は今の計画いけば、新鳥栖から武雄温泉は在来線区間を走るとなると 130km しかだせない。

それよりも増して、フリーゲージは最高速度が 270 でしたっけ? 270km やったと思うんですよね。

山陽新幹線 300km 時代なんですよ、今。

そういう時代に、フリーゲージがなかなか入れるスペースがないと思う。

それとですね、全国新幹線鉄道整備法の第2条によれば、新幹線の定義ってこう書いている。

主たる区間を 200km 以上の高速度で走行できる幹線鉄道、この時点で新幹線ではない、フリーゲージトレインは新幹線ではない、とハッキリ言える。

武雄、新鳥栖間が、130km です。

新鳥栖駅、在来線の進入、可能なのかというところ。

要はこれが新鳥栖駅です。

九州新幹線、このように走っています。

ですので、今回フリーゲージを使うとなると、この在来線に接続しないといけない。

となると、この黄色いラインが在来線のレールですが、ほぼ直角に交わっている状況。

ここに、機関変更装置なり、何なりの計画がされて、こう接続されていくのかなと。

やり方は、あくまでも私が単純に線を引っ張っただけですが、どうでもこがんとこは新しいのつくらばな、全部フルでしっかりつくってくるけんがな、と思っているんですが。

でですね、ちょっとまとめますと、既にフル規格の意見書を提出し、態度を表明している議会は、県内にこれだけあります。

武雄、嬉野、小城、神埼、多久(たく)、嬉野、あ、嬉野 2 回ある、何でかな、ごめんなさい、どっか間違えた…。

ごめんなさい、ちょっと今すぐぴんてきませんが。

これに複線化の区間を高架化してほしいという要望されている大町町、大町町もすでにフル規格という表明をされているようでございます。

これは私どもの話になりますが、九州新幹線、西九州ルート of フル規格化に向けた研修会

ということで県内で前日開催した。

この席には、イマムラ代議士が講演に駆けつけていただきまして、話を伺ったわけですが、今ですね、県内の議会の関係者の人間でフル規格に向けた議連を立ち上げようという話になっている。

うちも杉原議長を先頭に、県内の議長会でもその話を協議していただくと方向付けが進んでおりまして、議長会の会長さんから快諾いただいたところです。

それにふまえ…もちろん目的はフル規格ですよ、これを踏まえて、市長に伺いたいですが、フル規格に向けた、これからの市長の動き、武雄市の取り組みというか、そこら辺を全体のフル規格に向けて、今後われわれはどうすべきなのかというところを、考えをお聞かせいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

議長／樋渡市長

樋渡市長／今、手元に9月6日土曜日付けの毎日新聞が手元にあるんですけど、長崎市議会が、新幹線フル規格化を、ということで国へ意見書を…の検討に入っているという記事がある。

今まで、長崎県側は何といったかというふうに、不十分でもよかけんが、フリーゲージと言ったわけです。

僕に対してあまりフル規格というなど、わっば(?)をかけられていたわけですよ、長崎県側から。

ですが、長崎県もこうなってきた。

フル規格はいい、というふうになってきてますので、これはよく長崎県と力(ちから)を合わせて、フル規格に声をあげていきたいなというふうに思っております。

中途半端なものは、作らんほうがいいです。

それよりも多少送れても構わないし、いろいろ議論があろうかと思えますけれども、私はしっかりしたものをつくって、それこそ後世に残すべき。

もし、ここでフリーゲージといたら僕ら笑いものになりますよ。

笑いものに、間違いなく。

先ほど上田議員がさまざま御指摘あったやつが、全部露呈してくるわけです。

水害の問題、通信の問題であったり、そこは物事を変えるというのは政治家の役割だと思うんです。

そこは政治の出番だと思いますので、そういう意味で良い国会議員を選ぶ必要があるだろうと思っておりますし、私たちが政治家として、しっかり後押しをしておくことが必要だと思っておりますし、そこで公明党が絶対大事(だいじ)になってくる。

なぜならば、国土交通大臣が公明党なんです。

ですので、松尾陽輔議員の果たすべき役割は極めて大きいと思います。

議長／10番 上田議員

上田議員／本当に何としても、フル規格を実現しないと、後世に笑われると思うとです。
何とか、この流れをそういうふうに持っていきたいなと思っております。
以上で、私の質問を終わります。
ありがとうございました。

議長／以上で、10番 上田議員の質問を終了させていただきます。
以上で、本日の日程はすべて終了いたしました。
本日はこれにて散会いたします。
お疲れ様でした。